

財団法人 東洋文庫年報

昭和60年度

財団法人 東洋文庫

目 次

I	昭和60年度の東洋文庫	3
II	図書事業	5
	1. 図書資料の収集	5
	2. 図書資料の保存整理	6
	3. 図書資料の閲覧	7
	4. 資料複製増刷サービス	9
III	研究事業	10
	1. 調査研究	10
	i 文部省科学研究費による調査研究	10
	ii 一般調査研究	11
	iii 特別調査研究	14
	iv 研究委員会	15
	2. 学術図書出版	16
	3. 講演会	17
	4. 研究会	18
	5. 研究者養成	19
	6. 国内・国外研究者への便宜供与	19
	i 国内研究者の受入	19
	ii 外国人研究者の受入	19
	iii 研究者の派遣	20
	iv 外国人・外国人研究者への便宜供与	20

7. 職員の研究業績	25
IV 業務報告	41
1. 総務報告	41
2. 人事報告	43
V 役職員名簿	46
1. 役員	46
2. 東洋学連絡委員会委員	48
3. 名誉研究員	49
4. 職員	49
5. 臨時職員	53
VI 財団法人東洋文庫附置	
ユネスコ東アジア文化研究センター事業	54
1. 調査研究事業	54
2. 学術交流及び普及、ドキュメンテーション活動	57
3. 出版物の作成	59
4. 業務報告	63
5. 役職員名簿	66

## I 昭和60年度の東洋文庫

東洋文庫の創立者岩崎久弥氏は昭和30年12月2日逝去せられた。昭和60年は逝去後30年に当る。不祝儀では数え年で数えるので、昭和59年が30周忌に当るわけであるが、隣邦で古くから30年を一世とするのを考えると、今年は岩崎氏の逝去から将に一世が過ぎようとしているのである。

東洋文庫要覧に記されているように、岩崎久弥氏は、慶応元年(1865)8月25日、弥太郎氏の長男として土佐に生れた。長じて米国ペンシルヴァニア大学において主として自然科学を修め、明治24年(1891)、これを卒業して帰国、三菱合資会社が創立されるや、26年(1893)12月、その会長となって三菱の総事業を統率し、大正5年(1916)まで23年間に及んだ。その間、明治29年(1896)6月、先代の勲功によって男爵を授けられた。今次大戦後は専ら千葉県印旛郡富里村の末広農場に隠棲し、昭和30年12月2日、老衰のため逝去した。行年90。

氏が三菱の諸事業を確立する上に果された役割は、勿論多大なるものがあるが、また学術文化のために貢献された功績も極めて大きい。明治34年(1901)、故オクスフォード大学教授フリードリヒ＝マクス＝ミュラーの所謂マクス＝ミュラー文庫の我が国への購入計画が資金上の困難に逢着していた時、3万6千円を投じてこれを東京帝国大学に寄附されたのを始め、帝国学士院学術研究奨励金、恩賜財団済生会への寄附金、或いは都内の名園として知られる清澄庭園・六義園の寄附等、氏が文化事業に寄せられたものは実に莫大に上る。

これら氏の名前の出たもののほかに、名を出さないことを条件に学者や研究者グループに援助されたことは、枚挙に遑がない。

そうした文化事業の寄附の中で最大のものが東洋文庫であることは申すまでもないが、財団法人東洋文庫創立後も、常に文庫の順調な成長に留意され、岩崎文庫の全蒐書を寄贈されたほか、昭和7年には文庫の新館書庫を増築し、また大量或は高価な図書の世に出るごとに、購入してそれを文庫に寄贈されるなど、東洋文庫が時代の進運に従ってその機能を維持充実する上に配慮された氏の厚意には尽きざるものがあった。

その氏の厚意を思うごとに、東洋文庫をますます発展させて、これに報いる決意を新たにす次第である。

氏には中野忠明氏の麗筆になる「岩崎久弥伝」一冊645頁がある(昭和36年12月刊)。それは氏の為人(ひととなり)と事業とを伝えた詳しいものであるが、氏の長女沢

田美喜氏の「黒い肌と白い心—サンダース・ホームへの道」は娘から見た父とその家庭との面目を伝えた氏の外伝として感銘すべき少なからぬ事実を伝えている。中でも、昭和19年3月、氏の夫人<sup>レフコ</sup>子氏が逝去するに当たり、特に余人をしりぞけ、久弥氏を病室に招いて、氏が終始家庭を清潔に保ったことに感謝されたという記事は、全書の圧巻であって、人間としての氏の気高さと夫人への愛情とを示して余蘊ないものである。

氏没してここに30年。東洋文庫はこうした創立者をもったことに無限の誇りと喜びとを新たにし、その使命の達成に邁進しなければならない。

昭和60年度の重要事項としては、理事長に榎一雄氏を迎えたこと、さらにこの新理事長の下に創立以来の諸慣行を戦後の社会の変化に即応させて新しく組織化することが始められようとしている。それが形を整え、関係者になじまれるまでには、若干の年月を必要とするであろうが、昭和60年が新しい東洋文庫の出発点になることが切に期待される次第である。

## II 図書事業

### 1. 図書資料の収集

購入・交換・受贈によって収集した資料は、一般文献資料のほか、特に中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料・チベット特別研究資料・近代中国特別研究資料があり、昨年度より11,185冊増加した。しかし、財団法人東洋文庫の財政的危機をのりきるために萬やむを得ざる措置として広橋家旧蔵文書248点を昨年度に続いて国立歴史民俗博物館と、4点を文化庁に譲渡したため、蔵書数は673,599冊となった。

#### ・ 資料 購 入

	和漢書	洋書	その他	マイクロ・フィルム	計
一般文献資料	153冊	94冊	0枚	0リール	247
中央アジア特別研究資料	0	225	0	0	225
東アジア特別研究資料	1,913	45	0	0	1,958
西アジア特別研究資料	0	600	0	14	614
チベット特別研究資料	0	0	2,061	0	2,061
近代中国特別研究資料	813	105	0	0	918
計	2,879	1,069	2,061	14	6,023

・ 資料交換

	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋 書	計	和漢書	洋 書	計
単 行 本 (冊)	840	533	1,373	2,456	1,074	3,530
定期刊行物 (冊)	4,063	2,872	6,935	550	424	974
計 (冊)	4,903	3,405	8,308	3,006	1,498	4,504

2. 図書資料の保存整理

資料の利用を考慮した資料の保存・整理の問題を積極的に検討し、計画的に作業を実施している。

・ 補修再製本・製本

①

区 分	単 行 本	
	和 装	洋 装
数 量	4,427 <sup>冊</sup>	85 <sup>冊</sup>

②

区 分	定期刊行物	製 帙	複 写 資 料 製 本	その他
数 量	1,174 <sup>冊</sup>	222 <sup>帙</sup>	和装 1,067 <sup>冊</sup>	洋装 235 <sup>冊</sup>
				291 <sup>冊</sup>

・ 撮 影 ・ 焼 付

区 分	撮影齣数	焼付引伸数	フィルム反転	電子複写枚数	整理作業
数 量	29,608 <sup>コマ</sup>	69,089 <sup>枚</sup>	75 <sup>リール</sup>	2,300 <sup>枚</sup>	20 <sup>件</sup>

### 3. 図書資料の閲覧

#### ・ 図書利用状況

本年度の所蔵図書の利用状況は次の通りであった。

月	開館 日数	閲覧 者数	一日 平均	昨年同月 との比 (△印は減)	閲覧 図書数	一日 平均	昨年同月 との比 (△印は減)
4	24 <sup>日</sup>	286 <sup>人</sup>	12弱 <sup>人</sup>	△34	4,802 <sup>冊</sup>	200強 <sup>冊</sup>	△81
5	24	355	15弱	△81	4,765	198強	80
6	24	315	13強	△97	3,776	157強	△1,422
7	26	319	12強	△199	6,987	269弱	1,313
8	26	497	19弱	8	8,879	341強	1,261
9	22	384	17強	14	6,233	283強	1,414
10	25	459	18強	37	8,101	324強	1,667
11	22	420	19強	△55	5,753	261強	△262
12	22	409	19弱	△76	5,117	233弱	△361
1	21	216	10強	△58	3,083	147弱	△1,622
2	22	282	13弱	9	4,226	194強	794
3	24	316	13強	△4	5,455	227	1,160
計	282	4,258			67,177		



・ 閱 覧 図 書 数 内 訳

月	和 書		漢 書		洋 書		合 計	
	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数
4	262	483	539	4,103	160	216	961	4,802
5	263	401	732	4,041	191	323	1,186	4,765
6	225	486	484	2,967	184	323	893	3,776
7	279	558	955	6,127	165	302	1,399	6,987
8	418	1,410	1,094	6,815	322	654	1,834	8,879
9	223	401	785	5,317	266	515	1,274	6,233
10	422	687	953	7,030	232	384	1,607	8,101
11	302	457	790	4,866	264	430	1,356	5,753
12	271	386	839	4,368	239	363	1,349	5,117
1	206	305	475	2,575	105	203	786	3,083
2	266	639	473	3,195	222	392	961	4,226
3	262	340	681	4,686	233	429	1,176	5,455
計	3,399	6,553	8,800	56,090	2,583	4,534	14,782	67,177

#### 4. 資料複製増刷サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行なったもので、実績は下記の通りであった。

##### ・ マイクロ・フィルム

申込件数	撮影齣数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
852 <sup>件</sup>	112,526 <sup>コマ</sup>	64,041 <sup>枚</sup>	89,864 <sup>コマ</sup>

##### ・ 電子複写

申込件数	焼付枚数
967 <sup>件</sup>	54,924 <sup>枚</sup>

### III 研究事業

#### 1. 調査研究

調査研究は、文部省科学研究費補助金によるものと、国庫の補助金による一般・特別調査研究とにわかれる。

##### i 文部省科学研究費による調査研究

一般研究 (B)

【課題】 近・現代中国にかんする新聞報道の研究

【期間】 昭和60年度（2ヶ年継続事業最終年度）

【目的】 近代の中国は、日本や欧米列強にとって、もっぱら武力行使をともなった経済的侵略による勢力圏拡大の対象であった。そして、従来、これら諸列強の政策と侵略の実態については、多くの研究がなされてきた。いまや必要なことは、単に政府の政策レベルだけではなく、それを支えたそれぞれの国民の意識にまでわれわれの考察を深めることである。その一つの方法として、本研究は、国民意識の啓発と国民世論の形成のうえに大きな影響力をもつ各国の新聞が、中国情勢における諸事件についてどのような報道をおこない、いかなる論調を展開してきたかを検討するものである。

【事業】 具体的な研究内容にあたっては、太平天国、辛亥革命、西安事変を研究テーマとしてとりあげた。

(1) 太平天国には当時とくに欧米人の関心が高く、*North China Herald* には、太平天国の刊行文書、清側の記事、欧米人の記録、論説など、太平天国について多種多様な資料が掲載されている。これらをまずカードにまとめて分類・整理したのち、その記事・論説にみられる欧米人（主に宣教師、外交官）の太平天国観を考察した。

(2) 辛亥革命については、とくに従来研究の少ない第二革命を中心に、

『大阪朝日新聞』をはじめ、『東京朝日新聞』『中央新聞』『報知新聞』『時事新報』などの論説を検討して、日本人が事件をどのように理解していたかを明らかにした。

(3) 西安事変は謎の多い事件であり、とりわけ、中国共産党とその背後にいるソ連共産党、コミンテルンの果たした役割が十分明らかではない。しかし、近年出版された史料集や研究書によって全貌はかなり解明されてきているので、この研究成果を参照しつつ、『東京朝日新聞』が中共などの事件との関わりをどの程度正確に伝えたかを検討した。また、『プラウダ』の記事・論説を通して、ソ連が西安事変をどのように捉えていたかを明らかにした。

(4) 東洋文庫所蔵の中国文新聞の目録を作成し、以上の研究成果をとりまとめて報告書を作成した。

【代表者】 本庄比佐子

【分担者】 西安事変班：本庄比佐子，市古宙三  
太平天国班：河鱸源治，市古宙三  
辛亥革命班：坂野正高，山根幸夫  
日清戦後班：田中正俊  
所蔵目録作成：本庄比佐子

## ii 一般調査研究

本年度は、特に、南方史研究委員会、古代史研究委員会を中心に調査研究を行った。

### 東亜考古学研究委員会

【資料の整理】 故梅原末治評議員（京都大学名誉教授）寄贈にかかる東亜考古学資料（写真，実測図，拓本，野帖等）の整理とその目録の作成。（特に日本の部を含む東亜の部の青銅器資料の整理とその目録の作成）（前年度の継続）

### 古代史研究委員会

【資料の整理】 『東洋文庫所蔵梅原考古学資料目録—日本之部・中国之部・朝鮮之部

(II)』の作成。(前年度の継続)

#### 唐代史(敦煌文献)研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】(1) 国内国外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによるその収集・整理。

(2) 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献資料の公開及び情報の提供。

(3) 内陸アジア出土古文献研究会の開催。(以上、前年度の継続)

6月29日(土) 岡野 誠「唐永徽職員令の復原について」

山本達郎「レニングラード敦煌文書の二、三について」

9月7日(土) 片山章雄「大谷探検隊あれこれ」

池田 温「一九八五年中国敦煌・吐魯番学会学術討論会に参加して」

12月21日(土) 京戸慈光「フランス敦煌研究の現況」

#### 宋代史研究委員会

【資料の整理・研究及び情報活動】(1) 宋代研究文献目録及び速報の作成。

(2) 『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の作成。

(3) 『宋史選挙志』の研究並びに同研究会の開催。(以上、前年度の継続)

#### 明代史研究委員会

【研究・整理】(1) 『賢博編』(明史資料叢刊第一輯)を主として、明代社会に関する文献の講読・研究。(隔週研究会の開催)

(2) 『明代各種経世文目録』の作成。(以上、前年度の継続)

#### 清代史(満州・蒙古)研究委員会

【研究・整理】(1) 「旧満洲檔」の整理。

(2) 「鑲紅旗檔」乾隆朝(後半部分)の整理・研究。

(3) 清代法制資料(満・漢)の研究会の開催。(隔週研究会の開催)、(以上、前年度の継続)

#### 近代中国研究委員会

【研究・整理】(1) 中国共産党資料の書誌的研究及びその他収集した近・現代中国関係資料の整理・研究。

(2) 近・現代中国にかんする新聞報道の研究。(以上、前年度の継続)

日本研究委員会

【資料の研究・整理】 岩崎文庫貴重書書誌解題の編纂。 (前年度の継続)

朝鮮研究委員会

【研究・調査】 (1) 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。  
(2) 漢字の朝鮮音韻の研究・調査。

中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・研究】 (1) 『日本に於けるペルシャ語文献総合目録索引』の作成。

- (2) 『イスラム革命関係小冊子類解題目録』の作成。  
(3) イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。 (以上、前年度の継続)
- 7月6日 太田敬子 「ミルダース朝に関する一考察」  
10月26日 白井正博 「エジプトの立憲制について」  
12月7日 菟原 卓 「ファーティマ朝カリフ＝ムイッズ——イスマイル派神  
政君主像——」  
2月15日 稲葉 稷 「Sultān Mas'ūd 時代の Maḥmūdiyān と Mas'ūdiyān」
- (4) 隊商貿易史の研究。  
(5) 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。  
(6) イスラム社会の構造の研究。  
(7) トルコ日本両国の近代化の比較研究。

チベット研究委員会

【資料の整理・研究】 (1) チベット学に関する研究会の開催。  
(2) スタイン卿蒐集のチベット語文献解題目録等の編集・刊行。  
(3) 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。 (以上、前年度の継続)

南方史研究委員会

【資料の整理・研究】 (1) 『東洋文庫所蔵インド関係洋書分類目録 (II)』の作成。  
(2) 東洋文庫所蔵南アジア史関係資料 (辻文庫図書) の整理・研究とその分類目録の作成。 (前年度の継続)

### iii 特別調査研究

チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】

(1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会招聘のチベット人研究者（前チベット自治区師範大学（ラサ）チベット語教授）Sonam Choephel 氏の協力の下に下記の作業を進めた。

- ①前年度に引き続き、トウカン『一切宗義』『ゲールク派』『カギュ派』各章のテキスト・邦訳・訳注の整備を進めた。
- ②前年度に引き続き、『中論』の機械処理を進め、『正理蔵』のテキストの整備と機械処理を行った。
- ③ダス『蔵英辞典』（1902）の見出し語・例文の機械処理を行い、見出し語についてチベット人協力者の発音を観察し、音声表記法の検討を進めた。

(2) チベット語文献の収集・整理

西藏蔵外文献	2,061枚
--------	--------

(3) 研究成果の刊行

- ①『スタイン蒐集チベット語文献解題目録——第10分冊——』 B 5 判 1 冊  
(刊行済)
- ②『西藏仏教宗義研究第四巻——トウカン『一切宗義』『モンゴル』の章——』  
B 5 判 1 冊 (刊行済)
- ③『東洋文庫チベット特別調査研究年次報告』（昭和60年度版） A 5 判 1 冊  
(刊行済)

近代中国特別調査研究（近代中国研究委員会）

【目的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国関係資料の書誌的研究

【事業内容】

(1) 共同利用研究

- (2) 情報交換および参考業務（近代中国研究事務室において常時遂行）  
 (3) 図書・資料の収集，整理

区 分	和 漢 書	洋 書
数 量	813冊	105冊

(4) 研究成果の刊行

- ①『近代中国研究彙報 第8号』 A5判 1冊 （刊行済）

#### iv 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は，5部門12研究委員会にわかれる。昭和60年度の各研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

#### 第1部 中国研究

東亜考古学：小山 勲，関野 雄，渡辺兼庸

古代史：越智重明，宇都木 章，河野六郎，多田狷介，渡辺兼庸

唐代史（敦煌文献）：榎 一雄，池田 温，菊池英夫，土肥義和，藤枝 晃，  
松本 明

宋代史：草野 靖，佐伯 富，斯波義信，周藤吉之，竺沙雅章，千葉 巖，  
中嶋 敏，渡辺紘良

明代史：鈴木立子，田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫，和田博徳，姜 鎮慶，  
林 恩顕

近代中国：市古宙三，白井佐知子，河鱈源治，滋賀秀三，田中正俊，丁 果，  
坂野正高，本庄比佐子，矢沢利彦，山根幸夫，郭 鳳明

#### 第2部 日本研究

日本：石塚晴通，岩生成一，海野一隆，亀井 孝，酒井憲二，佐竹昭弘，  
田中時彦，枋尾 武，鳥海 靖，林 望，柳田征司

#### 第3部 東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：榎 一雄，石橋崇雄，岡田英弘，神田信夫，松村 潤



朝鮮：河野六郎，末松保和，田川孝三，武田幸男，古屋昭弘，森岡 康

#### 第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：榎 一雄，梅村 坦，後藤 明，小松久男，佐藤次高，  
清水宏祐，志茂碩敏，永田雄三，花田宇秋，本田實信，

護 雅夫，八尾師 誠，渡邊 宏，今沢紀子，片山章雄

チベット：榎 一雄，川崎信定，北村 甫，松濤誠達，山口瑞鳳，

ソナム・チュンペール

#### 第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄，生田 滋，岩生成一，榎 一雄，後藤均平，原 實，

三根谷 徹，山崎元一，山本達郎，金沢 篤

## 2. 学術図書出版

東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko” No.43 1985年刊

B 5 判 108頁

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』第67巻1・2号 昭和60年12月刊 A 5 判 166頁

『東洋学報』第67巻3・4号 昭和61年3月刊 A 5 判 190頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第8号 昭和61年3月刊 A 5 判 89頁

チベット研究委員会

『スタイン蒐集チベット語文献解題目録』第10分冊 昭和61年3月刊 B 5 判  
110頁

『西藏仏教宗義研究第四巻——トウカン『一切宗義』「モンゴル」の章——』 昭

和61年3月刊 B5判 207頁  
『東洋文庫チベット特別調査研究年次報告』（昭和60年度版） 昭和61年3月  
A5判 10頁

明代史研究委員会

『明代経世文分類目録』 昭和61年3月刊 B5判 280頁

東洋文庫諸目録其他刊行物

『東洋文庫新着図書目録——和書・中国書・朝鮮書——』第33号（1984年4月～1985年3月） 昭和61年3月刊 B5判 127頁

『東洋文庫書報』第17号 昭和61年3月刊 A5判 117頁

『東洋文庫年報』昭和59年度版 昭和60年10月刊 A5判 65頁

『近・現代中国にかんする新聞報道の研究』（昭和59・60年度文部省科学研究費補助金・一般研究(B)・研究成果報告書） 昭和61年3月刊 B5判 43頁

『Marco Polo Bibliography（マルコ・ポーロ書誌）1477——1983』 昭和61年3月刊 A4判 345頁

『Sōseki's Development as a Novelist until 1907, with Special Reference to the Genesis, Nature and Position in his Work of KUSA MAKURA』 昭和60年9月刊 B5判 333頁

### 3. 講演会

春期 東洋学講座

第357回 昭和60年5月28日(火)

「近藤重蔵の『喇嘛考』」

東洋文庫研究員  
筑波大学助教授

川崎信定氏

第358回 昭和60年6月4日(火)

「在英国日本古典籍につきて」

東洋文庫研究員  
東横学園短期大学助教授

林 望氏

- 第359回 昭和60年6月11日(火)  
「ムハンマド(マホメット)を生んだ社会」 東洋文庫研究員 山形大学助教授 後藤 明氏
- 第360回 昭和60年6月18日(火)  
「宋代士大夫層の底辺」 東洋文庫研究員 独協医科大学助教授 渡辺紘良氏

#### 秋期 東洋学講座

- 第361回 昭和60年10月15日(火)  
「二十四孝」と「本朝二十不孝」 東洋文庫研究員 名城大学教授 佐竹昭広氏
- 第362回 昭和60年10月22日(火)  
「宋代の後妃」 東洋文庫研究員 桐朋学園短期大学教授 千葉 隰氏
- 第363回 昭和60年10月29日(火)  
「賈似道の公田法」 東洋文庫研究員 熊本大学教授 草野 靖氏
- 第364回 昭和60年11月5日(火)  
「中国の近代地主—江蘇、河南、四川における視覚的接近—」 東洋文庫研究員 北海道大学教授 菊池英夫氏
- (なお、春秋二期の各講演の要旨は、『東洋文庫書報』第17号に掲載されている。)

#### 4. 研究会(東洋文庫談話会)

- ・昭和61年2月8日(土)  
「オリエンタリズムをめぐる批判——エドワード W. サイド著『オリエンタリズム』に即して」 東洋文庫奨励 研究員 今沢紀子氏

・昭和61年3月8日(土)

「風俗通義と雞肋編と」

日本女子大学 多田狷介氏  
教授  
私学研修教員

## 5. 研究者養成

中国研究 石橋崇雄 「清朝八旗制度及び内務府研究」

インド研究 金沢 篤 「中世ヒンドウー教史——前・後ミーマーンサー哲学文  
献の研究——」

西アジア研究 今沢紀子 「エジプトの対西欧従属過程に関する研究」

## 6. 国内・国外研究者への便宜供与

### i 国内研究者の受入

- |      |                    |  |
|------|--------------------|--|
| 多田狷介 | 国内研修教員<br>日本女子大学教授 | 「評論からみた二～四世紀中国の人と社会」(昭<br>和60年度1ケ年間)(私学研修福祉会の要請) |
| 片山章雄 | 日本学術振興会<br>奨励研究員   | 「古代トルコ民族史の研究」(昭和60年度1ケ年<br>間)                    |

### ii 外国人研究者の受入

- |      |                          |  |
|------|--------------------------|--|
| 姜 鎮慶 | 中国社会科学院<br>歴史研究所副研究<br>員 | 「明清社会経済史研究——特に土地制度、税制、<br>商品流通問題を中心として——」(昭和60年7月<br>以降1ケ年間)(国際交流基金の招聘)  |
| 丁 果  | 中国上海師範大学<br>歴史系助手        | 「近代日中関係史及び日本近現代史の研究」(昭<br>和59年10月以降2ケ年間)(中国政府派遣費)                        |
| 林 恩顯 | 中国国立政治大学<br>教授           | 「中国辺疆研究の現状」(昭和60年8月以降1ケ<br>年間)(台北中国国家科学委員会派遣費)                           |
| 郭 鳳明 | 中国文化大学副教<br>授            | 「幣原外相の対中国政策(1924～1927)」(昭和60<br>年9月以降6ケ年間)(台北中国行政院派遣費)<br>(昭和61年2月27日帰国) |

### iii 研究者の派遣

本庄比佐子

出張先：中国福建省社会科学院歴史研究所等及び香港の研究機関等

出張目的：中国福建省・香港の近現代史研究状況の把握，学術交流の確立及び関係資料調査・蒐集

出張期間：自昭和60年11月3日 至昭和60年11月29日

### iv 外国人研究者への便宜供与

Argentina

Roberto H. Oest      Director, Department of Japanese Studies, Center  
for Philosophical Research

Brazil

Joseph M. Luytan      Dr., Lecturer, Univ. of São Paulo, School of Com-  
munication and Arts

China (People's Republic)

劉大年	中国社会科学院近代史研究所名誉所長
林甘泉	中国社会科学院歴史研究所所長
楊向奎	” ” 研究員
孫祚民	山東社会科学院研究員
林華雄	中国社会科学院外事局弁公室総合業務組組長
解莉莉	” ” アジア・アフリカ処職員
何培忠	” 文献情報センター助理研究員
夏応元	” 歴史研究所副研究員
李侃	北京師範大学教授，中華書局副総編輯
趙守儼	中国唐史学会理事，” ”
許宏	中華書局秘書処副処長
胡振華	北京中央民族学院副教授
特布信	内蒙古大学校長，教授
鄭広智	” 校務委員会副首席，教授
李博	” 生物系教授
布林貝嚇	” 蒙古語言文学系副教授
亦邻真	” 蒙古史副教授，蒙古史研究所所長

- 徐 炳勛 蒙古大学外国語言（英語）文学系副教授  
 梅 重遠 " 外事局秘書  
 趙 展 中国中央民族学院研究所（東北內蒙古研究室）研究員  
 烏 丙安 遼寧大学教授  
 巖 詔璽 北京大学古文献研究所副所長  
 楊 平石 中国社会科学院近代史研究所副研究員  
 黃 烈 " 歷史研究所 "  
 周 自強 " " "  
 孟 世凱 " " 助理研究員  
 林 子東 福建社会科学院副院長  
 嘯 馬 " 福建論壇主編  
 劉 学沛 " 歷史研究所副所長  
 林 方 " 科研組織所所長  
 梅 韜 " 教授  
 楊 国楨 厦門大学歷史研究所副所長  
 辛 冠潔 中国社会科学院哲学研究所主任研究員  
 徐 遠和 " " 副研究員  
 楊 憲邦 人民大学哲学系教授  
 張 立文 " " 副教授  
 賈 順先 四川大学 " 教授  
 潘 富恩 復旦大学 " "  
 高 令印 厦門大学 " "  
 謝 宝森 浙江社会科学院副研究員  
 趙 宗正 山東社会科学院 "  
 李 学勤 中国社会科学院歷史研究所副所長，研究員  
 韓 国磐 厦門大学歷史系教授  
 林 增平 湖南師範大学校長，教授  
 樂 明純 天津中医学院歷史系助手  
 尚 明軒 中国社会科学院近代史研究所副研究員

China (Taiwan)

- 王 賢德 台湾高雄師範大学研究員

吾 密察	台湾大学歴史系教授
李 東華	” ” ”
吳 守成	海軍軍官学校教授
哈勤楚倫	国立政治大学辺政研究所教授

Denmark

Charlotte Rohde	Research Librarian, Oriental Department, The Royal Library, Copenhagen
-----------------	--

Egypt

Hasan Hanafi	Dr., Prof., Cairo Univ.
--------------	-------------------------

France

M.マカギアンサー	Assistant Director-General for Oulture, Unesco, Paris
-----------	---

Michel Cartier	Directeur d' Etudes Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales
----------------	--

Jean Paul Desroches	Professeur a L' ecole du Louvre, Conservateur au Musee Guimt
---------------------	--

Germany (Federal Republic)

Mechthild Leutner	Dr., Ostasiatisches Seminar, Freie Universität, Berlin
-------------------	--

Hungary

Apor Éva Vamagi	Dr., Head of Library of the Hungarian, Academy of Science, Oriental Collection, Budapest
-----------------	--

Iran

Ali Akbar Shoari Nejad	イラン文化庁出版部長
------------------------	------------

Seyed Reza Ale-Muhammad	イラン文化庁国際課長
-------------------------	------------

Italy

Lionello Lanciotti	The Vice-President of the Italian Institute for the Middle and For East, Roma
--------------------	---

Korea(Republic)

閔 斗基	Seoul 大学校歴史系教授
------	----------------

李 相沢	〃	教授
徐 大錫	〃	〃
黄 湏江	檀国大学校教授	
李 寬逸	總神大学校教授	
曹 喜雄	国民大学校	〃
金 大幸	梨花女子大学校教授	
成 賢慶	西江大学校教授	
李 江魯	檀国大学校東洋学研究所教授	
鄭 泰秀	Seoul 教育大学学長, 前文部次官	
朴 鶴来	東京韓国教育院院長	
朴 泰根	世宗大学校教授	
李 命英	成均館大学校社会科学大学教授	
Netherlands		
T. E. Vetter	Dr., Prof. of Buddhist Studies, Tibetan Language and Indian Philosophy, Liden State University	
Poland		
Romuald Huszcza	Ph. D., Assistant Prof., Department of General Linguistics, Warsaw Univ.	
Singapore		
李 炯才	駐日新加坡大使館大使	
Turkey		
Metin And	Prof., University of Ankara	
A. Mete Tuncoku	Dr., Asst. Prof. of international Relations, Middle East Technical University	
Nihat Erçen	Secretary, Turkish Embassy.	
United Kingdom		
David Myean	Dr., Associate Professor in History, King's College, University of London	
Michael Aris	Dr., Fellow of Wolfson College, Oxford, and Indian Institute of Advanced Studies, Simla	
U. S. A.		
David Jackson	Ph. D., University of Washington	



E. O. Reiman	Ass. Prof., Dept. of Foreign Language, Arizona State Univ.
Joshua Fogul	(Prof.)Fairbank Center, Harvard University
陳 弱水	(Prof.)History Department, Yale University
黃 培	(Prof.)Youngstown State Univ. Ohio
Ellen Widmer	Assistant Prof., Wesleyan Univ. Connecticut
Daniel Pipes	Dr., Associate Prof., Naval War College

U. S. S. R.

Vladimir S. Miasnikov	Dept. Chief, Institute of the Far East, Academy of Science
-----------------------	--

## 7. 職員の研究業績

期間：昭和60年4月1日～昭和61年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編書(共著) ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介  
⑥…翻訳 ⑦…講演・研究発表 ⑧…その他 (評論・雑記・座談会等)

池田 温

③「敦煌の歴史的背景」(東洋学術研究24-1, 1~28頁, 東洋哲学研究所, 1985年5月), 「中国の歴史書と六国史」(歴史と地理—日本史の研究358号, 1~17頁, 1985年6月), 「〈唐令拾遺補〉編纂をめぐる」(唐代史研究会編『律令制—中国朝鮮の法と国家』, 99~132頁, 汲古書院, 1986年2月), 「中国古代契約文書の整理」(東京大学東洋文化研究所東アジア部門編『中国朝鮮文書史料研究』, 1~31頁, 編者刊, 1986年3月), 「中国古代の奴婢観」(『中村治兵衛先生古稀記念論文集』, 25~44頁, 刀水書房, 1986年3月), ④「中国の国家文物局古文庫研究室における出土文字資料研究の状況」(『アジアにおける現地研究調査報告書』(4), 1~16頁, 東京大学東洋文化研究所, 1986年3月), 「敦煌学の今日—中国敦煌吐魯番学術討論会に出席して」(出版ダイジェスト1148号, 1面, 1985年12月11日), ⑤「河南省文物研究所・河南省洛陽地区文管処編『千唐誌齋藏誌』」(東洋史研究44-3, 137~44頁, 1985年12月), ⑥「姜伯勳〈敦煌・吐魯番とシルクロード上のソグド人(1)〉」(季刊東西交渉5-1, 30~39頁, 1986年3月), ⑦「中日韓戸籍比較略論」(中国中古史国際研討會(香港大学亞洲研究中心), 1985年7月15日), 「吐魯番出土唐儀鳳年間度支金部旨條—大谷文書簡介」(中国敦煌吐魯番学術討論会(烏魯木齊), 1985年8月8日), 「中国出土文献の現状」(アジア研究専門司書養成「アジアと資料」研修講座(国立教育会館), 1985年8月22日), 「敦煌の魅力を語る」(聖教新聞教養講座(日本青年館), 1985年11月13日)。

石橋 崇雄

②『東アジアの変貌』(『ビジュアル版・世界の歴史』11, 講談社, 1985年8月, 261頁, 図版部分の選定・解説), 『孔子』(『伝記・世界の偉人』2, 中央公論社, 1985年10月, 143頁, 解説), ③“The Formation of the Power of Early Ch'ing Emperors”(“Proceedings of the International Conference on China Border Area Studies”75~104頁, 1985年4月), ④「一九八四年の歴史学界—回顧と展望—: 東アジア(中国—明・清)」(史学雑誌94-5, 218~225頁, 史学会,

1985年5月), ⑤「増井経夫著『中国の歴史書——中国史学史——』」(歴史と地理357, 54頁, 山川出版社, 1985年5月), 「藤堂明保著『中国の歴史と故事』」(歴史と地理360, 53頁, 山川出版社, 1985年8月), 「小島晋治ほか著『いまアジアを考えるⅠ・Ⅱ』」(歴史と地理363, 46頁, 山川出版社, 1985年11月), 窪 徳忠著『道教の神々』(歴史と地理366, 54頁, 山川出版社, 1986年2月), ⑦「清初における皇帝権の形成をめぐる」(第34回東北中国学会・史学部会, 1985年5月26日), ⑧「sacima のこと」(東天紅22, 1～2頁, 東洋大学史学科研究室内「東洋史懇話会」, 1986年2月)。

今沢 紀子

⑦「オリエンタリズムをめぐる批判——エドワード W・サイード著『オリエンタリズム』に即して——」(東洋文庫談話会, 1986年2月8日)。

岩生 成一

①新編『朱印船貿易史の研究』(吉川弘文館, 1985年12月, 485頁), ②“The Life of Pieter Hartsinck, the Japanner (1637—1680) Grand Pupil of Descartes” (Transaction of the Asiatic Society of Japan. Vol. 20, 1985. pp. 145～167), ⑦「文禄二年呂宗長官宛家豊臣秀吉書翰」(日本古文書学会, 1985年6月22日), 「忘れられた歴史地理学者北沢正誠」(日本学士院, 月例総会, 1986年3月14日), ⑧「外交奇譚と外交余録」(吉川弘文館の新刊, No, 22, 1985年12月, 2～3頁)。

白井佐知子

④「1984年の歴史学界——回顧と展望——東アジア, 中国——近代」(史学雑誌94—5, 225～232頁, 史学会, 1985年5月), ⑤「彭沢益著『十九世紀後半期の中国財政と経済』」(近代中国17, 15～23頁, 巖南堂書店, 1985年7月)。

梅村 坦

②共著『悠久の大地 中国 5000年の歴史を行く』(担当: 「砂漠とオアシスの世界」, 110～123頁, 教育社, 1985年7月20日), ⑤「モンゴル遊牧民に関する近著」(季刊東西交渉5—1, 53～56頁, 1986年3月30日), ⑦「イスラム文化の東漸」(横浜朝日カルチャーセンター, 1985年10月26日), 「トルファン・ウイグル人社会の一断面」(東洋史研究会大会, 1985年11月3日, 要旨: 東洋史研究44—3, 148頁, 1985年12月31日)。

海野 一隆

③“*The Asian Lake Chiamay in the Early European Cartography*” (*Imago et Mensura Mundi : Atti del IX Congresso Internazionale di Storia della Cartografia*, pp. 287~296, Istituto della Enciclopedia Italiana, 1985年5月), 「ブリティッシュ・コロンビア大学における江戸時代地図の収集」(月刊古地図研究16-7, 2~4頁, 日本地図資料協会, 1985年9月), 「米国における和製地図の収集」(同16-8, 2~5頁, 1985年10月), 「明・清におけるマテオ・リッチ系世界図——主として新史料の検討——」(山田慶児編『新発現中国科学史資料の研究——論考篇——』507~580頁, 京都大学人文科学研究所, 1985年12月), ⑤“*Kochizu-shō : Nippon no Chizu no Ayumi, By Nobuo Muroga, 1983*” (*Imago Mundi* 37, pp. 114~115, International Society for the History of Cartography, 1985), ⑦“*The European Elements in the Japanese Survey Methods during the Edo Era : With Special Reference to the Technical Terms and the Instruments*” (XVII th International Congress of History of Science, University of California, Berkely, 1985年8月6日), 「中国の思考——天と地と人——」(市民教養文化講座, 守山市野洲郡勤労福祉会館, 1986年2月15日), ⑧「祈りの地図」(大阪大学学報375, 67~68頁, 1985年4月), 「長久保赤水」(『平凡社大百科事典』11, 46頁, 1985年6月), 「ミュンスター」(同14, 514~515頁, 同年同月), 「歴史地図」(同15, 905~906頁, 同年同月)。

榎 一雄

③「魏志倭人伝とその周辺——テキストを検討する——(十), (十一), (十二)」(季刊邪馬台国24・25・26, 130~145・204~218・204~218頁, 梓書院, 1985年6月・9月・12月), 「新疆の建省——二十世紀の中央アジア——(三)」(近代中国17, 75~90頁, 巖南堂, 1985年7月), 「明末のマカオ(五), (六), (七)」(季刊東西交渉4-3・4, 5-1, 14~19・12~18・14~20頁, 井草出版, 1985年9月, 12月, 1986年3月), ④「アル=イドリースィー校訂本の刊行」(東方学70, 151~162頁, 1985年7月), 「ボクサー教授著作目録」(東方学70, 163~174頁, 1985年7月), 「康区藏族の一妻多夫制」(東方学70, 175~193頁, 1985年7月) ⑧「日本文化研究所の設立に思う」(言論春秋300, 1985年6月24日, 2頁), 「本立ちて道生ず」(言論春秋381, 1985年11月18日, 1頁), 「中国敦煌展を見て」(聖教新聞8344, 1985年10月25日, 1頁), 「石田幹之助著作集」(広告文, 六興出版, 1985年9月), 木屋隆安著『日本史異議あり』序文(泰流社, 1965年7月, 4~6頁), 「藤澤便り」

〔「邪馬台国の会」会報20, 1985年9月, 1～4頁〕, 「徐霞客遊記」(アジア時報188, 社団法人アジア調査会発行, 1985年12月, 3～7頁)。

#### 越智 重明

①『魏晋南朝の人と社会』(研文出版, 1985年10月, 341頁), ③「西周春秋戦国時代の諸侯の社」(九州大学東洋史論集14, 1～33頁, 九州大学文学部東洋史研究室, 1985年12月), 「漢時代の市をめぐって」(史淵103, 103～130頁, 九州大学文学部, 1986年2月)。

#### 岡田 英弘

③“Five Tibeto-Mongolian Sources on the Rje btsun dam pa Quturtus of Urga”(辺政研究所年報16, 225～234頁, 国立政治大学, 1985年10月), ④「第28回国際アルタイ学会」(通信55, 38～40頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1985年11月), ⑤「札奇斯欽著『我所知道的徳王和当時の内蒙古』解説」(日本とモンゴル20—1, 87～90頁, 日本モンゴル協会, 1985年10月), ⑥「バーバラ・ニムリ・アジーズ 国際チベット学会第3回大学紀要の刊行」(通信55, 9～10頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1985年11月), ⑦「韓国史」(日本文化会議異文化間コミュニケーション研究会, 1985年5月9日), “The Koreans in Manchuria in the Yüan Times”(International Conference on Sino-Korean Cultural Relations, Taipei, 1985年5月20日), 「韓国現代史」(日本文化会議異文化間コミュニケーション研究会, 1985年6月4日), “Jesuit Influence in Emperor K'ang-hsi's Manchu Letters”(The 28th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Venice, 1985年7月12日), 「日中交流と日本人の中国理解」(企業内語学教育研究会, 1985年10月16日), 「漢字文化圏の社会と人間関係——国家意識・家族意識・美意識」(日本文化会議異文化間コミュニケーション研究会, 1985年10月29日), 「中国文化史——南宋・元 居庸関」(アサヒ・カルチャー・センター横浜, 1985年11月16日), 「蒙古自治運動と日中関係」(エグゼクティブ・アカデミー, 1985年11月26日, 全文: 新井経済研究所エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ, 5～41頁), “Mandarin, a Language of the Manchus: How Altaic?”(International Symposium on the Languages, Cultures and Histories of the Minority Nationalities of China, Santa Barbara, 1986年1月27日), ⑧「特集・三国志 地政学的考察」(Will 6月特別号, 72～75頁, 中央公論社, 1985年6月), 「韓国史をどう見るか——東北アジア史からの視点」(月曜評論771, 2頁, 月曜評論社, 1985年11月14日), 「建国記念の日特別番組 古代青銅器

の謎」(NHK 第1放送, 1986年2月11日)。

### 片山 章雄

⑦「大谷探検隊あれこれ」(東洋文庫内陸アジア出土古文献研究会, 1985年9月7日), 「古代テュルク碑文における方位の問題」(第35回東方学会全国会員総会, 1985年11月8日, 要旨: 東方学71, 189~190頁, 1986年1月), 「タリアト碑文について」(上智大学史学会, 1985年12月1日), ⑧「大谷家蔵版『新西域記』の復刻」(月刊言語14-6, 117頁, 大修館書店, 1985年6月), 「大谷探検隊関係記録拾遺 I, II, III」(季刊東西交渉4-3, 4-4, 5-1, 口絵1~4頁, 59~62頁, 口絵1~4・65~72頁, 井草出版, 1985年9月, 12月, 1986年3月), 「カプガン・ハガン」(『大日本百科全書』5, 594頁, 小学館, 1985年8月)。

### 金沢 篤

③「Brahmasūtra I-1-4の解釈を廻って——samanvayaを中心に——」(駒沢大学仏教学部論集16, 565~539頁, 駒沢大学, 1985年10月), 「Saṅkarṣakāṇḍaをめぐる諸問題——Mīmāṃsā研究序説——」(東洋学報67-3~4, 01~035頁, 東洋文庫, 1986年3月), 「Prapañcahṛdaya 試論——匿名作品の歴史的位置付け——」(駒沢大学仏教学部研究所紀要44, 398~377頁, 駒沢大学, 1986年3月), ⑥「ピーター・L・バーガー編『神の知られざる顔——宗教体験の根本構造』」(岩松浅夫らと共訳, 教文館, 1985年10月, 426頁), ⑧「ラヴクラフトと『禅の書』」(定本ラヴクラフト全集月報6, 1頁, 国書刊行会, 1985年6月)。

### 川崎 信定

③「チベットの仏教」(小野泰博他編『日本宗教事典』, 228~233頁, 弘文堂, 1985年4月), 「肉食とBhāvaviveka」(東方1, 174~184頁, 財団法人東方研究会, 1985年4月), 「諸法実相を基盤とした一切智・一切種智」(『平川彰博士古稀記念論集・仏教思想の諸問題』, 353~372頁, 春秋社, 1985年6月), 「大乘仏教とチベット」(平川彰・高崎直道・梶山雄一編『講座・大乘仏教: 大乘仏教とその周辺』99~126頁, 春秋社, 1985年8月), 「『中観心論』にみられる一切智(Sarvajña)思想」(印度学仏教学研究34-1, 160~167頁, 1985年12月), 「パーリ文献にみられる一切智(sabbaññū)」(『雲井昭善博士古稀記念・仏教と異宗教』, 187~203頁, 平楽寺書店, 1985年12月), 「仏典のことは」(林四郎編『応用言語学講座・第6巻・ことばの林』, 44~57頁, 明治書院, 1986年3月), 「バヴィヤ造『中観心論』・『思釈炎』第九章・第十章研究——一切智思想の展開に関連して——」(筑波大学哲学・思想

学系論集昭和60年度, 1～25頁, 1986年3月), 「Bhāvavivekaの生類観——草木に心があるか——」(豊山教学大会紀要14, 159～173頁, 1986年3月, ⑦「近藤重蔵の『喇嘛考』」(東洋文庫春期東洋学講座, 1985年5月28日, 要旨: 東洋文庫書報17, 79～80頁, 1986年3月)。

#### 河鱒源治

③「『ノースチャイナ・ヘラルド』に見る欧米人の太平天国観」(『近・現代中国にかんする新聞報道の研究』<昭和60年度科学研究費補助金・一般研究B 研究成果報告書> 3～7頁, 東洋文庫, 1986年3月)。

#### 神田 信夫

③「清初の漢人武将石廷柱について」(駿台史学66, 1～20頁, 駿台史学会, 1986年2月), ⑤「莊吉発著『故宮檔案述要』」(東洋史研究44—1, 164～172頁, 東洋史研究会, 1985年6月), 「遼寧省檔案館・遼寧社会科学院歴史研究所・瀋陽故宮博物院院編『三姓副都統衙門滿文檔案譯編』」(東洋学報67—3・4, 151～154頁, 東洋文庫, 1986年3月), ⑦「明清資料の現状」(アジア資料懇話会「アジアと資料」研修講座, 1985年8月26日), 「東洋文庫所蔵の滿文檔案」(北京, 明清檔案与歴史研究学術討論会, 1985年10月10日), ⑧「後記」(『神田喜一郎全集』VI, 495～496頁, 同朋舎出版, 1985年4月, 『同書』I, 469～471頁, 1986年1月), 「あとがき」(神田喜一郎『中国書道史』277～279頁, 岩波書店, 1985年6月), 「創刊のことば」(清史研究1, 清史研究会, 1985年10月), 「清代滿洲語文献の調査と研究」(明治大学人文科学研究所年報26, 83～84頁, 1985年10月), 「高橋克三先生を憶う」(湖南6, 28～29頁, 内藤湖南先生顕彰会, 1985年12月), 「東洋史用語の解説の角度」(『現代用語の基礎知識1986』804頁, 自由国民社, 1986年1月), 「あとがき」(白鳥庫吉『朝鮮史研究』599～602頁, 岩波書店, 1986年1月), 「あとがき」(山田信夫共同執筆, 白鳥庫吉『塞外民族史研究下』519～521頁, 岩波書店, 1986年1月), 「北京の秋」(月刊健康281, 4～5頁, 1986年2月), 「解説」(『石田幹之助著作集第三卷』375～384頁, 六興出版, 1986年2月), 「清朝史研究の回顧と課題——清初史談話会から——」(東方59, 60, 2～11, 2～14頁, 東方書店, 1986年2月, 3月)。

#### 草野 靖

③「唐宋時代に於ける農田の存在形態(下)」(文学部論叢17, 57～79頁, 熊本大学文学会, 1985年10月), ⑦「賈似道の公田法」(東洋文庫秋期東洋学講座, 1985

年10月29日、要旨：東洋文庫書報17, 87～89頁, 1986年3月)。

後藤 明

③「『コーラン』にみえるウンマ」(『三笠宮殿下古稀記念オリエント学論集』166～175頁, 日本オリエント学会, 1985年12月), “Al-Madina; a historical analysis of the city at the time of Prophet Muḥammad”(Ed. by M. A. J. Beg, *Historical Cities in Asia*, University Kebangsaan, Malaysia, 1986), 「ハガリズム——イスラム到来前後のシリア——」(『アジア・アフリカにおけるイスラム化と近代化に関する調査研究——昭和58・59年度共同研究プロジェクト報告——8・9』, 47～56頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1986年3月, 科学研究費報告書『イスラム圏における宗教運動に関する総合的研究(代表者: 護雅夫)』, 112～114頁, 1986年3月), 「『コーラン』に見る預言者とその民」(科学研究費報告書『イスラム圏における宗教運動に関する総合的研究(代表者: 護雅夫)』, 1～17頁, 1986年3月), 「ムハンマドの戦争」(牟田口義郎編『世界の戦争・3・イスラムの戦争』, 63～104頁, 講談社, 1985年6月), 「アラブ文化とイスラム」(中村廣治郎編『講座イスラム・1・イスラム・思想の営み』, 7～24頁, 筑摩書房, 1985年9月), 「イスラームの政治的展開」(板垣雄三・佐藤次高編『概説イスラーム史』, 19～48頁, 有斐閣, 1986年1月), ⑦「ムハンマド(マホメット)を生んだ社会」(東洋文庫春期東洋学講座, 1985年6月11日, 要旨: 東洋文庫書報17, 81頁～83頁, 1986年3月)。

佐伯 富

③「『雍正時代の研究』索引」(『雍正時代の研究』, 1～71頁(逆頁), 同朋舎出版, 1986年1月)。

佐藤 次高

②『概説イスラーム史』(板垣雄三, 佐藤次高共編, 有斐閣選書(有斐閣), 1986年1月, 316+45頁), 『世界史写真集・第II期』(江上波夫・成瀬治・佐藤次高監修, 山川出版社, 1986年3月, 30枚), ③「アラブ民族の発展」, 「トルコ民族の進出」(三上次男編『世界陶磁全集21 イスラーム』, 111～117頁, 123～126頁, 小学館, 1986年1月), ⑦「サラディンのイクター授与文書」(第27回日本オリエント学会大会, 1985年11月), 「イスラム社会の奴隷と奴隷軍人について」(金沢経済大学, 1985年11月), 「最近の中東事情」(金沢市民大学講座, 1985年11月), ⑧「歴史紀行, アラブの古戦場を訪ねて」(牟田口義郎編『イスラムの戦争』, 講談社,



169～206頁，1985年6月）。

### 酒井 憲二

- ②『寛永諸家系図伝 第八』(校訂協力，統群書類従完成会，1985年12月，280頁)，  
③『中近世における一種の仮名遣について(下)』(語文62，23～36頁，1985年6月)，「新資料『甲陽軍鑑末書』について(1)」(季刊日本思想史25，92～111頁，1985年7月)，「東洋文庫蔵『大鏡』残欠本の写真及び翻刻正誤——付，披雲閣本との対校結果——」(東洋文庫書報17，21～59頁，1986年3月)。

### 斯波 義信

- ③「宋代江南秋苗額考」(『中村治兵衛先生古稀記念東洋史論叢』，303～319頁，刀水書房，1986年3月)，「宋代の東アジアと日本」(田中健夫編『海外視点 日本の歴史6，鎌倉幕府と蒙古襲来』，34～47頁，日本アート・センター，1986年3月)，  
⑦「南宋杭州の城市生態」(中国宋史国際学術討論会，1985年5月15日)，“Max Weber's Contribution to the History of Non-European Societies : China” (16. Internationaler Kongress der Geschichtswissenschaft, Stuttgart, W-Germany, 1985年8月26日)，「宋代長江下流域の生産性」(東洋史研究会大会，1985年11月3日)。⑧雑記「寧波」(週刊朝日百科 日本の歴史1，中世I—1 源氏と平氏—東と西 30頁，1986年3月)。

### 清水 宏祐

- ③「民族と宗教・宗派I」(『概説イスラーム史』，262～287頁，有斐閣，1986年2月)，「貨幣史料によるセルジューク朝史研究序説——ビュリエット説に対する一見解——」(イスラム世界25・26，103～128頁，1986年2月)，「セルジューク朝のスルタンたち」(『オリエント史講座・第5巻 スルタンの時代』7～30頁，学生社，1986年3月)，⑦「大セルジューク朝関係史料について」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，「内陸アジア文字史料についてのプロジェクト」，1985年11月5日)，⑧「セルジューク朝史料覚え書き」(『イスラム圏における宗教運動』，125～140頁，日本大学，1986年3月)。

### 鈴木 立子

“Mongol Rule over Hu-Kuang 湖廣 Province during the Yüan Dynasty”(The Memoires of the Toyo Bunko 43, pp. 19～43, 1985年)。

関野 雄

- ③「中国における貨幣の起源」(ライフサイエンス12-9, 30~35頁, [社]生命科学振興会, 1985年9月), ⑥「故宫博物院・商務印書館香港分館編『故宫博物院名宝百選』」(日本語版監修, 五味充子らと共訳, 講談社, 1986年3月, 264頁), ⑧「中文和訳雑感」(交流簡報53, 2~3頁, 日中人文社会科学交流協会, 1985年5月), 「父・関野貞を語る」(美術博物館ニュース21, 2~4頁, 東京大学教養学部美術博物館委員会, 1985年5月), 「反核宣言をたたえる」(考古学研究32-1, 1~2頁, 考古学研究会, 1985年6月), 「期待される始皇帝陵の発掘」(文化庁月報201, 8~9頁, [株]ぎょうせい, 1985年6月), 「夏竦氏を悼む」(古代文化38-2, 45~47頁, [財]古代学協会, 1986年2月)。

武田 幸男

- ①『シンポジウム 好太王碑』(三上次男等と共著, 東方書店, 1985年12月, 259頁), ②『朝鮮史』(山川出版社, 1985年8月, 459頁), ③「新羅“毗曇の乱”への一視角」(『三上次男博士喜寿記念論文集 歴史編』, 234~246頁, 平凡社, 1985年8月), ⑦「高句麗古都集安紀行」(東京大学文学部東洋史談話会, 1985年11月9日)。

多田 狷介

- ⑤「華南農学院馬列主義教研室・広東海豊県紅宮紀念館「彭湃伝」編写組『彭湃伝』(『史艸26, 67~77頁, 日本女子大学史学研究会, 1985年11月), ⑦「風俗通義と雞肋編と」(東洋文庫談話会, 1986年3月8日, 要旨: 東洋文庫書報18)。

竺沙 雅章

- ④「五代・宋・元」(『日本における歴史学の発達と現状VI, 歴史学主要文献1978-1982-』, 253~267頁, 山川出版社, 1985年9月), ⑦「宋遼仏教文化的交流」(中国宋史国際学術討論会, 杭州, 1985年5月15日), 「宋元仏教の南北問題—慈恩宗の系譜—」(日本歴史学協会総会, 1985年10月26日, 要旨: 日本歴史学協会年報第1号, 1~3頁)。

千葉 昶

- ③「宋代后妃覚書」(桐朋学園大学短期大学部紀要4, 69~91頁, 桐朋学園大学短

期大学部, 1985年11月), ⑦「宋代の後妃」(東洋文庫秋期東洋学講座, 1985年10月22日, 要旨: 東洋文庫書報17, 86~87頁, 1986年3月)。

### 鶴見 尚弘

【昭和58年度】③「魚鱗冊を訪ねて——中国研修の旅——」(近代中国研究彙報6, 30~68頁, 1984年3月), ⑦「四ヶ月, 中国研修の旅——史料の蒐集を中心として——」(歴史学研究会, 1983年7月15日, 要旨: 史潮新14, 弘文堂, 1983年), 「明清時代の魚鱗冊」(東洋文庫秋期東洋学講座, 1983年11月8日, 要旨: 東洋文庫書報17, 66~67頁, 1984年3月)。

【昭和59年度】③「中国封建社会論」(『中世史講座5 封建社会論』, 76~105頁, 学生社, 1985年3月), ⑤「藤原作弥著『満洲, 少国民の戦記』」(中国研究月報444, 18~19頁, 中国研究所, 1985年2月), ⑥“Rural Control in the Ming Dynasty”(edited by Linda Grove and Christian Daniels, State and Society in China, pp. 245~277, University of Tokyo Press, 1984), ⑧「万里の長城」(『Utan』, 16~33頁, 学習研究社, 1984年10月)。

【昭和60年度】⑦「關於蘇州府長洲県魚鱗図冊的土地統計考察——以康熙十五年丈量長洲県魚鱗冊為中心——」(中国明史學術討論会, 中国安徽省黄山, 1985年10月13日)。

### 朽尾 武

②『国会図書館蔵和漢朗詠集・内閣文庫蔵和漢朗詠集私註 漢字総索引, 附和歌断句要語索引』(新典社, 1985年10月)。

### 鳥海 靖

②『徳富蘇峰関係文書』第2巻(酒田正敏氏らと共編, 山川出版社, 1985年7月, 407頁), 『国史大辞典』第6巻(坂本太郎氏らと共編, 吉川弘文館, 1985年10月, 976頁), ⑧「今月の日本史」(歴史読本30-8・12, 254~255, 254~255頁, 新人物往来社, 1985年5月, 12月), 「インドで思う」(仔馬37-3, 116~117頁, 慶応義塾幼稚舎, 1985年11月)。

### 林 望

③『ロンドン大学東洋アフリカ校所蔵日本古典籍善本解題並に目録』(東横国文学18, 119~198頁, 東横学園女子短期大学国文学会, 1986年3月), 『大英図書館訪書小録——伊井春樹氏著録の書目をめぐって——』(東洋文庫書報17, 60~78頁,

東洋文庫, 1986年3月), ⑦「在英国日本古典籍について」(東洋文庫春期東洋学講座, 1986年6月4日, 要旨: 東洋文庫書報17, 80~81頁, 1986年3月), ⑧「グリーンノウの家に住んだ話——私の接したルーシー・M・ボストン夫人——」(三田評論1986年3月号, 66~69頁, 慶應義塾, 1986年3月)。

## 原 實

③「Yogasūtra III-37」(雲井昭善博士古稀記念『仏教と異宗教』41~56頁, 平樂寺書店, 1985年12月), “A Note on the Sādhina Jātaka”(Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft, Supplement VI (Stuttgart), pp. 308-314), ④“Studies on Indian Philosophy and Literature in Japan, 1973-1983”(Asian Studies in Japan, 1973-1983 Part II-21, The Centre for East Asian Cultural Studies, Tokyo, 1985), ⑦“The Holding of the Hair (*keśa-grahaṇa*)”(27 Sept., at Univ. of Copenhagen, 2 Oct., at Univ. of Oslo, 10 Oct. at Univ. of Stockholm, 14 Oct., at Univ. of Uppsala, 21 Oct., at Univ. of Helsinki), “Some Aspects of Ancient Indian Asceticism”(26 Sept., at Univ. of Copenhagen, 7 Oct., at Univ. of Göteborg, 15 Oct., Univ. of Uppsala, 17 Oct., at Univ. of Stockholm), “A Note on the Buddha’s Birth-story”(1 Oct., at Univ. of Copenhagen, 23 Oct at Univ. of Helsinki, 29 Oct., at Univ. of Lund), “Transfer of Merit”(15 Oct., at Univ. of Uppsala, 28 Oct., at Univ. of Lund), “Recent Indological Studies in Japan”(27 Sept., at the Scandinavian Institute of Asian Studies, Copenhagen, 4 Oct., at Univ. of Oslo, 8 Oct., at Univ. of Göteborg, 17 Oct., at Univ. of Stockholm).

## 藤枝 晃

【昭和59年度】③「元代文化の世界性」(『遙なる文明の旅8・モンゴル世界帝国』, 学習研究社, 1985年2月)。

【昭和60年度】③「『徳化李氏凡将閣珍藏』印について」(京都国立博物館学叢7, 153~173頁, 1986年1月), 「北朝における『勝鬘經』の伝承」(田村圓澄, 川岸宏教編『日本仏教史論集第1巻・聖徳太子と飛鳥仏教』, 228~262頁, 吉川弘文館, 1985年10月〔原載: 東方学報京都40, 1969年3月〕), ⑥「沙州帰義軍節度使始末序説」(寧欣訳, 中国敦煌吐魯番学会研究通訊1985-2(總5), 28~62頁, 同会秘書処, 1985年6月), ⑦「益州麻紙——唐の宮廷用紙」(京都国立博物館々内研究会, 1985年9月3日), ⑧「飯田利行訳註『湛念居士文集』推薦文」(『同書』内容見本, 国書刊行会), 「中国敦煌展によせて」(芸術公論2-5, 64~67頁, 日本

美術出版, 1985年9月), 「花樹対鹿文錦・西域文字三日月文錦 解説」(北村哲郎監修『龍村平藏・織の美展図録』, 朝日新聞社, 1986年3月), 「表紙のことは」(言語生活400—411, 各号扉頁, 筑摩書房, 1986年)。

#### 古屋 昭弘

- ③「『現代中国語用例索引の自動編集』(共同執筆電子技術総合研究所彙報49—4, 253~275頁, 電子技術総合研究所, 1985年4月), 「宋代の動補構造“V教(O)C”について」(中国文学研究11, 40~57頁, 早稲田大学中国文学会, 1985年12月), ⑦「漢字の仮借用法について」(早慶中国学会, 1985年7月6日), 「明代の呉語」(第2回呉語連絡会議, 1985年11月8日)。

#### 本庄比佐子

- ③「『プラウダ』にみるソ連の西安事変観」(科研費報告書『近・現代中国にかんする新聞報道の研究』, 13~15頁, 1986年3月), ⑤「遵義会義に関する新資料——『遵義会議文献』にふれて」(燎原24, 4~6頁, 燎原書店, 1985年8月), ⑧「福建訪問記——福建事変と閩西ソビエト区と」(近代中国研究彙報8, 23~38頁, 東洋文庫, 1986年3月), “Social Democratic Party”(H. Fukui ed. *Political parties of Asia and the Pacific*, pp. 250~251, Greenwood Press, Westport, Conn., 1985)。

#### 護 雅夫

- 【昭和58年度】①『シルクロード』(共著)(読書マップ, 筑摩書房, 1983年7月, 355頁), ②『内陸アジア・西アジアの社会と文化』(山川出版社, 1983年6月, 937頁), ③「突厥における君主観」(『内陸アジア・西アジアの社会と文化』, 95~132頁, 山川出版社, 1983年6月), ⑤「編書を語る 護雅夫編『内陸アジア・西アジアの社会と文化』」(季刊東西交渉2—3, 36頁, 井草出版, 1983年9月), 「ホルヘ=ブランコ=ヴィヤルタ著(ウィリアム=キャンベル英訳)『アタテュルク』」(東洋学報65—1・2, 151~156頁, 1984年1月), ⑧「黒海への船旅そのほか」(青淵415, 38~40頁, 渋沢青淵記念財団竜門社, 1983年10月), 「三角形と蚯蚓——解説にかえて——」(豊田穰『江田島教育』, 252~260頁, 集英社, 1983年12月), 「歌は世につれ」(柿の葉47, 28~29頁, 柿の葉会, 1984年1月)。

- 【昭和59年度】①『草原とオアシスの人々』(人間の世界歴史7, 三省堂, 1984年10月, 310頁), 『すべての道はローマに通ず——イスタンブール・ギリシャ・イタリア——』(共著)(シルクロードローマへの道第12巻, 日本放送出版協会, 1984

年10月, 280頁), ③「突厥の即位儀礼」(史叢34, 1~17頁, 日本大学史学会, 1985年3月), ④「海軍兵学校・研究室・みづほ館」(神田信夫・山根幸夫編『戦中戦後に青春を生きて——東大東洋史同期生の記録』, 117~143頁, 山川出版社, 1984年4月), 「トルコ語と日本語」(銀行倶楽部316, 18~19頁, 東京銀行協会, 1984年7月), 「勤勉さ」からの訣別」(上山義雄編『道——昭和の一人一話集9——』, 105~111頁, 中統教育図書, 1984年9月), 「『新西域記』の復刊に思う」(季刊東西交渉3-3, 23頁, 井草出版, 1984年9月), 「トルコ民族史に魅せられて1——『草原とオアシスの人々』の周辺(1)——」(季刊東西交渉4-1, 23~26頁, 1985年3月), 「序」(西嶋定生博士還暦記念論叢編集委員会編『東アジア史における国家と農民』, 57~60頁, 山川出版社, 1984年11月), 「序文」(『東洋文庫所蔵アラビア語文献目録(増補・改訂版)』, i~iii頁, 東洋文庫, 1985年3月)。

【昭和60年度】③「突厥の信仰——とくにシャーマニズムについて——」(『三上次男博士喜寿記念論文集』歴史編, 304~319頁, 平凡社, 1985年8月), 「イェニセイ銘文に見える“säkia adaqlıy barım”について」(研究紀要32, 29~56頁, 日本大学人文科学研究所, 1986年3月), ⑤「A. N. コノノフ総編輯, S. G. クリヤシュトールヌイ責任編輯, H. G. ドプロドモフ, E. R. テュニシェフ監修, D. D. ワシリエフ著『イェニセイ川流域テュルク・ルーン文字記念物集成』」(東洋学報67-1・2, 01~07頁, 東洋文庫, 1985年12月), ⑥「トルコ民族史に魅せられて2~4——『草原とオアシスの人々』の周辺(2)~(4)——」(季刊東西交渉4-2, 3, 5-1, 14~18, 20~24, 21~29頁, 井草出版, 1985年6月, 9月, 1986年3月), 「死者とシャーマニズム」(馬街33, 2~5頁, 日本中央競馬会, 1985年12月), 「編輯後記」(東方学71, 212頁, 東方学会, 1986年1月), 「はじめに」(『イスラム圏における宗教運動に関する総合的研究』, (1)~(3)頁, 日本大学, 1986年3月)。

#### 柳田 征司

①『室町時代の国語』(東京堂出版, 1985年9月, 258頁), ③「音韻史における中世」(日本語学4-5, 12~23頁, 明治書院, 1985年5月), 「古代語の長音と中世語・近代語の長音」(国語と国文学62-5, 1~10頁, 日本大学国語国文学会, 1985年5月), 「活用語の語幹末に生じた母音連続(続)(上)(下)」(国語国文54-5, 6, 1~31頁, 17~46頁, 京都大学文学部国語学国文学会, 1985年5月, 6月), 「錦繡段抄下解題」(松本隆信・築島裕・小林芳規編『六地藏寺善本叢刊6中世国語資料』, 567~586頁, 汲古書院, 1985年10月), 「林羅山の仮名交り注釈書について——抄物との関連から——」(築島裕博士還暦記念会編『築島裕博士還暦記念国語学論集』, 388~406頁, 明治書院, 1986年3月), ④「岡野久胤」(愛媛新聞社編

『愛媛県百科大事典』, 235頁, 愛媛新聞社, 1985年6月), 「方言」(同前, 433~434頁, 同前), 「愛媛県方言語詞抄」(同前, 737~745頁, 同前), 「しきしょう史記抄」(国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』6, 699~700頁, 吉川弘文館, 1985年11月), 「新刊自己紹介 国語学叢書5室町時代の国語」(日本語学4-12, 126頁, 明治書院, 1985年12月)。

#### 山崎 元一

③「ヴァルナ間混血の理論について」(国学院雑誌86-5, 24~50頁, 国学院大学, 1985年5月), 「古代インドの差別——シュードラと不可触民——」(部落解放史ふくおか39, 87~144頁, 福岡部落史研究会, 1985年9月), ④「南アジア」(国際歴史学会議日本国内委員会編『日本における歴史学の発達と現状(6)』, 325~336頁, 山川出版社, 1985年9月), “Japanese Studies on South Asian History (until 1900)” (*Asian Studies in Japan*, 1973-83, Part II-23, 21p., The Centre for East Asian Cultural Studies, 1985), ⑥ R. S. シャルマ著『古代インドの歴史』(山崎利男と共訳, 山川出版社, 1985年8月, 375頁), ⑧「インダス文明の謎」(*CI Monthly*, No. 407, 58~62頁, 1985年6月), 「インドのカーストとヒンドゥー教」(時事教養8, 12~13頁, 1985年12月)。

#### 山根 幸夫

①『明代社会の研究——紳士層の問題を中心として』(科研費報告書, 1986年3月, 43頁), ③「袁世凱と日本人たち——坂西利八郎を中心として」(社会科学討究88, 483~501頁, 早大社会科学研究所, 1985年4月), 「中国の共和制と日本の対応——辛亥革命の際における」(『菊池貴晴先生追悼中国近現代論集』351~370頁, 汲古書院, 1985年9月), 「江戸時代に日本へ輸入された明代方志について」(漢学研究3-2第1冊, 357~368頁, 漢学研究資料及服務中心, 1985年12月), 「日本の新聞より見た〈第二革命〉」(『近現代中国に関する新聞報道の研究』, 8~9頁, 科研費報告書, 1986年3月), 「女子大生は日中戦争をこう考える——再び女子大生の中国観について」(『中村治兵衛先生古稀記念東洋史論叢』, 484~499頁, 刀水書房, 1986年3月), ④「韓国における明代史研究文献目録 1984~85」(明代史研究14, 8, 56頁, 1986年3月), ⑤「新書紹介」(日本研究1985-2, 87~88頁, 遼寧大学日本研究編輯所, 1985年6月), 「王徳毅・劉静貞編『中華民国台湾地区公蔵方志目録』」(東洋学報67-1・2, 111~113頁, 1985年12月), 「顧誠『明末農民戦争史』」(東洋学報67-1・2, 113~120頁, 1985年12月), 「漢学研究資料及服務中心『台湾地区漢学論著選目』」(東洋学報67-3・4, 147~150頁, 1986

年3月), ⑥呉金成「明代紳士層の社会移動について」(上)(明代史研究14, 23~48頁, 1986年3月), ⑦「袁世凱と坂西利八郎」(中央研究院近代史研究所, 1985年4月3日午後), 「江戸時代に日本へ将来された明代地志について」(方志学国際検討会, 1985年4月3日午前, 於台湾師範大学), 「幣原貴重郎——その人と外交」(東北師範大学, 1985年6月14日), 「日本の学生は日中戦争をこう考える」(東北師範大学, 1985年6月17日), 「孫文とキリスト教」(東京女子大学読史会大会, 1985年11月30日), ⑧「長春における日本研究」(けんぶん3, 7~8頁, 研文出版, 1985年11月), 「方志学国際検討会参加記」(近代中国研究彙報8, 1~12頁, 1986年3月), 「李光涛教授の逝去を悼む」(明代史研究14, 1~8頁, 1986年3月), 「方志学国際検討会参加記」(明代史研究14, 57~59頁, 1986年3月)。

#### 林 恩顯

②『譜系と宗親組織』(中華民國崇親譜系学会編〔林恩顯主編〕, 上・下2冊, 成文出版社, 1985年8月), ③「唐朝対吐谷渾の和親政策研究」(『国際中国中古史研究討会』, 香港大学亞洲研究中心, 1985年7月), 「和親政策与民族主義」(『三民主義与蒙藏研究討会』, 中華民國政治大学, 1985年12月), ⑦「中華民國における中国边疆研究現状」(社会文化史学会講演会, 1985年10月5日及び中央大学白東史学会年会, 1985年11月30日), 「中華民族的構成及其与国家建設的關係」(中華民國留日学人學術研討会專題講演, 1986年1月26日)。

#### 和田 博徳

③「里甲制と里社壇・郷厲壇——明代の郷村支配と祭祀——」(『西と東と——前嶋信次先生追悼論文集』, 413~432頁, 1985年6月), ⑤「浜島敦俊『明末東南沿海諸省の牢獄』(『東アジア史における国家と農民』所収)」(法制史研究35, 338~342頁, 1986年3月), ⑧「漢籍の撰述——卒業論文の創作と剽窃——」(慶応義塾大学報167, 1985年12月)。

#### 渡辺 紘良

②“*Acta Asiatica*, no. 50, *Studies in Social and Political History of the Sung Dynasty*”(東方学会, 125頁, 1986年3月), ③“*Local Shih-ta-fu in the Sung*”(Acta Asiatica 50, 54~72頁, 東方学会, 1986年3月), ⑤「天保十年伊勢参りの記録(一)」(独協医科大学教養医学科紀要8, 1~33頁, 独協医科大学教養医学科, 1985年12月), ⑦「宋代士大夫の底辺」(東洋文庫春期東洋学講座, 1985年6月18日, 要旨: 東洋文庫書報17, 83~85頁, 1986年3月)。



渡邊 宏

- ③ 「マルコ・ポーロ研究者の遺稿」(季刊東西交渉 4-2 〈通巻14号〉, 42~49頁, 付:口絵, マルコ・ポーロ世界誌の書影V, 1~4頁, 井草出版, 1985年6月), 「マルコ・ポーロの肖像」(季刊東西交渉 4-4 〈通巻16号〉, 37~44頁, 井草出版, 1985年12月), 「クラブプロト, フルモン, ブレキニのマルコ・ポーロ研究ノート」(季刊東西交渉 5-1 〈通巻17号〉, 59~64頁, 井草出版, 1986年3月)。

## IV 業務報告

### 1. 総務報告

#### A. 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

##### 理事会

- 第251回 開催日 昭和60年4月2日（火曜日）  
出席者 榎 一雄，有光 次郎，市古 宙三，小笠原光雄，坂本 太郎，林 健太郎，護 雅夫，山本 達郎，奥野 高，播磨 俊雄  
委任状 大槻 文平，河野 六郎，高垣寅次郎，田中 正俊，中村 俊男，松本 重治
- 第252回 開催日 昭和60年4月2日（火曜日）  
出席者 榎 一雄，有光 次郎，市古 宙三，小笠原光雄，坂本 太郎，林 健太郎，護 雅夫，山本 達郎，奥野 高，播磨 俊雄  
委任状 大槻 文平，河野 六郎，高垣寅次郎，田中 正俊，中村 俊男，松本 重治
- 第253回 開催日 昭和60年6月4日（火曜日）  
出席者 榎 一雄，有光 次郎，市古 宙三，小笠原光雄，河野 六郎，田中 正俊，林 健太郎，松本 重治，護 雅夫，奥野 高，播磨 俊雄  
委任状 坂本 太郎，高垣寅次郎，山本 達郎
- 第254回 開催日 昭和60年6月4日（火曜日）  
出席者 榎 一雄，有光 次郎，市古 宙三，小笠原光雄，河野 六郎，田中 正俊，林 健太郎，松本 重治，護 雅夫，奥野 高，播磨 俊雄  
委任状 坂本 太郎，高垣寅次郎，山本 達郎
- 第255回開催日 昭和60年12月3日（火曜日）

- 出席者 榎 一雄, 有光 次郎, 市古 宙三, 小笠原光雄, 河野 六郎, 田中 正俊, 林 健太郎, 山本 達郎, 播磨 俊雄
- 委任状 坂本 太郎, 中村 俊男, 松本 重治, 護 雅夫, 奥野 高
- 第256回 開催日 昭和61年3月4日(火曜日)
- 出席者 榎 一雄, 市古 宙三, 小笠原光雄, 河野 六郎, 林 健太郎, 護 雅夫, 奥野 高, 播磨 俊雄
- 委任状 有光 次郎, 坂本 太郎, 田中 正俊, 中村 俊男, 松本 重治, 山本 達郎
- 第257回 開催日 昭和61年3月4日(火曜日)
- 出席者 榎 一雄, 市古 宙三, 小笠原光雄, 河野 六郎, 林 健太郎, 護 雅夫, 奥野 高, 播磨 俊雄
- 委任状 有光 次郎, 坂本 太郎, 田中 正俊, 中村 俊男, 松本 重治, 山本 達郎

#### 評議員会

- 第114回 開催日 昭和60年4月2日(火曜日)
- 出席者 岡野 澄, 亀井 孝, 神田 信夫, 関野 雄, 中嶋 敏, 前田 充明
- 委任状 石川 忠雄, 沢田 敏男, 田部文一郎, 中田 乙一, 中山 素平, 西原 春夫, 長谷川周重, 日比野丈夫
- 第115回 開催日 昭和60年6月4日(火曜日)
- 出席者 市古 宙三, 岡野 澄, 奥野 高, 亀井 孝, 神田 信夫, 関野 雄, 田中 正俊, 中嶋 敏, 播磨 俊雄, 日比野丈夫, 前田 充明, 森 亘, 護 雅夫
- 委任状 石川 忠雄, 沢田 敏男, 田部文一郎, 中田 乙一, 中山 素平, 西原 春夫, 長谷川周重
- 第116回 開催日 昭和60年6月4日(火曜日)
- 出席者 岡野 澄, 亀井 孝, 神田 信夫, 関野 雄, 中嶋 敏, 日比野丈夫, 前田 充明, 森 亘
- 委任状 石川 忠雄, 沢田 敏男, 田部文一郎, 中田 乙一, 中山 素平, 西原 春夫, 長谷川周重
- 第117回 開催日 昭和61年3月4日(火曜日)
- 出席者 亀井 孝, 関野 雄, 中嶋 敏, 前田 充明
- 委任状 石川 忠雄, 岡野 澄, 神田 信夫, 田部文一郎, 中田 乙

一、中山 素平、西島 安則、西原 春夫、長谷川周重、日比野丈夫、森 亘

## B. 東洋学連絡委員会の開催

前期 開催日 昭和60年5月28日（火曜日）

出席者 榎 一雄、市古 宙三、岩生 成一、佐藤 長、中嶋 敏、日比野丈夫、福井 康順、宮崎 市定、山本 達郎

議 題 1. 昭和59年度財団法人東洋文庫事業報告について  
2. 昭和60年度財団法人東洋文庫事業計画について

後期 開催日 昭和60年11月26日（火曜日）

出席者 榎 一雄、市古 宙三、岩生 成一、佐藤 長、中嶋 敏、山本 達郎

議 題 1. 昭和60年度財団法人東洋文庫事業中間報告について  
2. 昭和61年度財団法人東洋文庫事業計画について

## 2. 人 事 報 告

### A. 役 員 異 動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
60.4.1	評 議 員	平 野 龍 一	退 任	
"	"	森 亘	就 任	
60.6.4	理 事 長	榎 一 雄	"	
"	理 事	高 垣 寅 次 郎	退 任	
"	"	大 槻 文 平	"	
60.12.16	評 議 員	沢 田 敏 男	"	
"	"	西 島 安 則	就 任	

B. 職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
60.4.1	研究員(兼任)	小松久男	委嘱	
"	"	佐竹昭広	"	
"	"	武田幸男	"	
"	"	千葉 虔	"	
"	"	古屋昭弘	"	
"	"	渡辺 宏	"	
"	研究員(奨励)	石橋崇雄	就任	
"	"	金沢 篤	"	
60.7.1	研究員(兼任)	鈴木立子	委嘱	
60.9.22	研究顧問	岩村 忍	逝去	
60.10.1	研究員(兼任)	矢沢利彦	委嘱	
60.12.1	"	朽尾 武	"	
"	"	柳田 征司	"	
60.12.31	参 事	稲村 優	退職	
"	"	平野 豊	"	
61.1.1	"	広木 節己	就職	
61.3.31	研究部長	榎 一雄	退任	
"	研究員(兼任)	白井 佐知子	"	
"	研究員(奨励)	今沢 紀子	"	
"	"	石橋 崇雄	"	

C. 受 賞

年月日	役職名	氏名	区分	備考
60.5.3	理事長代理	榎 一 雄	叙 勲	勲二等瑞宝章
"	理 事	市 古 宙 三	"	"
"	"	河 野 六 郎	"	勲三等旭日中綬章
"	研究員(兼任)	森 岡 康	"	勲五等瑞宝章
60.11.3	維持会員	山 田 春	"	勲一等瑞宝章
60.11.5	元東洋学連絡 委員会委員	金 倉 円 照	顕 彰	文化功労者

## V 役職員名簿

昭和61年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

### 1. 役員

役職名	氏名	現職
理事長	榎 一 雄	財団法人東洋文庫研究部部長 財団法人東洋文庫図書部部長 東京大学名誉教授
理 事	有 光 次 郎	日本芸術院院長 東京家政学院大学学長
〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	小笠原 光 雄	株式会社三菱銀行相談役
〃	河 野 六 郎	東京教育大学名誉教授
〃	坂 本 太 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授 国学院大学名誉教授
〃	田 中 正 俊	信州大学教授
〃	中 村 俊 男	株式会社三菱銀行代表取締役会長 社団法人経済団体連合会副会長
〃	林 健太郎	参議院議員
〃	松 本 重 治	財団法人国際文化会館理事長
〃	護 雅 夫	日本大学教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア 文化研究センター所長 東京大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監 事	奥 野 高	財団法人三菱財団常務理事
〃	播 磨 俊 雄	三菱金曜会事務局長

現 職 名	氏 名	現 職
評 議 員	石 川 忠 雄	慶応義塾長 慶応義塾大学学長
〃	岡 野 澄	全国国立高等専門学校協会会長 東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア 文化研究センター運営委員
〃	亀 井 孝	一橋大学名誉教授
〃	神 田 信 夫	明治大学教授
〃	関 野 雄	文化財保護審議会専門委員 東京大学名誉教授
〃	田 部 文一郎	三菱商事株式会社取締役会長
〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	中 田 乙 一	三菱地所株式会社取締役会長
〃	中 山 素 平	株式会社日本興業銀行特別顧問
〃	西 島 安 則	京都大学学長
〃	西 原 春 夫	早稲田大学総長
〃	長谷川 周 重	住友化学工業株式会社社長
〃	日比野 丈 夫	大手前女子大学学長 京都大学名誉教授
〃	前 田 充 明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア 文化研究センター顧問
〃	森 亘	東京大学学長



## 2. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	榎 一 雄	( 前 掲 出 )
常 任 委 員	山 本 達 郎	"
委 員	市 古 宙 三	"
"	岩 生 成 一	日本学士院会員
"	江 上 波 夫	古代オリエント博物館館長 東京大学名誉教授
"	小 川 環 樹	京都産業大学教授 京都大学名誉教授
"	貝 塚 茂 樹	京都大学名誉教授
"	佐 藤 長	仏教大学教授 京都大学名誉教授
"	長 尾 雅 人	日本学士院会員 京都大学名誉教授
"	中 嶋 敏	( 前 掲 出 )
"	日 比 野 丈 夫	"
"	福 井 康 順	早稲田大学名誉教授
"	本 田 實 信	京都大学教授
"	宮 崎 市 定	京都大学名誉教授

### 3. 名誉研究員

氏 名	現 職
W. T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
E. O. ライシャワー	ハーヴァード大学教授, 元駐日アメリカ大使
A. フォン・ガベイン	前ハンブルグ大学教授
J. ギェルネ	第7パリ大学教授, フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

### 4. 職 員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	部 長	榎 一 雄	( 前 掲 出 )
	部 長 代 理	護 雅 夫	〃
	部 長 補 佐	田 中 正 俊	〃
	研 究 顧 問	岩 村 忍	京都大学名誉教授
	研究員(兼任)	荒 松 雄	津田塾大学教授
	〃	池 田 温	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	石 塚 晴 通	北海道大学助教授
	〃	市 古 宙 三	( 前 掲 出 )
	〃	岩 生 成 一	〃

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員 (兼 任)	宇都木 章	青山学院大学教授
	〃	白 井 佐知子	国学院大学講師
	〃	梅 村 坦	立正大学専任講師
	〃	海 野 一 隆	大阪大学教授
	〃	越 智 重 明	九州大学教授
	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所教授
	〃	亀 井 孝	( 前 掲 出 )
	〃	川 崎 信 定	筑波大学教授
	〃	河 鱒 源 治	愛知大学教授
	〃	神 田 信 夫	( 前 掲 出 )
	〃	菊 地 英 夫	北海道大学教授
	〃	北 村 甫	東京外国語大学アジア・アフ リカ言語文化研究所教授
	〃	草 野 靖	熊本大学教授
	〃	小 松 久 男	東海大学専任講師
	〃	河 野 六 郎	( 前 掲 出 )
	〃	後 藤 明	山形大学助教授
	〃	後 藤 均 平	立教大学教授
	〃	佐 伯 富	京都大学名誉教授
	〃	佐 藤 次 高	東京大学助教授
	〃	佐 竹 昭 広	成城大学教授
	〃	酒 井 憲 二	図書館情報大学教授
	〃	斯 波 義 信	大阪大学教授
	〃	滋 賀 秀 三	千葉大学教授
	〃	清 水 宏 祐	東京外国語大学助教授
	〃	周 藤 吉 之	元東京大学教授
	〃	末 松 保 和	学習院大学名誉教授
	〃	鈴 木 立 子	愛知大学助教授
〃	関 野 雄	東京大学名誉教授	
〃	田 川 孝 三	日本大学講師	
〃	田 中 時 彦	東海大学教授	
〃	武 田 幸 男	東京大学教授	
〃	千 葉 昶	桐朋学園大学短期大学部教授	

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員（兼任）	田 中 正 俊	（ 前 掲 出 ）
	”	竺 沙 雅 章	京都大学教授
	”	朽 尾 武	成城大学教授
	”	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学教授
	”	土 肥 義 和	国学院大学教授
	”	鳥 海 靖	東京大学教授
	”	中 嶋 敏	（ 前 掲 出 ）
	”	永 田 雄 三	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授
	”	八尾師 誠	東京外国語大学専任講師
	”	花 田 宇 秋	明治学院大学助教授
	”	林 望	東横学園女子短期大学助教授
	”	原 實	東京大学教授
	”	藤 枝 晃	京都大学名誉教授
	”	古 屋 昭 弘	早稲田大学専任講師
	”	本 田 實 信	（ 前 掲 出 ）
	”	松 濤 誠 達	大正大学助教授
	”	松 村 潤	日本大学教授
	”	三根谷 徹	国学院大学教授
	”	護 雅 夫	（ 前 掲 出 ）
	”	森 岡 康	元国立国会図書館支部東洋文庫司書
	”	矢 沢 利 彦	埼玉大学名誉教授
	”	柳 田 征 司	愛媛大学教授
	”	山 口 瑞 鳳	東京大学教授
	”	山 崎 元 一	国学院大学教授
	”	山 根 幸 夫	東京女子大学教授
	”	山 本 達 郎	（ 前 掲 出 ）
”	和 田 博 徳	慶応義塾大学教授	
”	渡 辺 宏	東洋大学東洋学研究所研究員	
”	渡 辺 紘 良	独協医科大学助教授	
	研究員（専任）	松 本 明	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部 長	榎 一 雄
	東洋文庫長	渡 辺 兼 庸*
	主 査	小 山 勲*
	副 主 査	池 田 直 人*, 志 茂 碩 敏*, 竹之内 信 子*
	〃	児 野 寿 満子, 秩 父 良 子*, 広 瀬 洋 子*
	事務主任	小 林 輝 男*
	係 員	浅 野 千 秋, 西 園 一 男
総務部	部 長	早 船 艶 雄
	課長代理	光 田 憲 雄
	係 員	金 子 祐 子, 広 木 節 巳, 谷 治 嘉 紀
	〃	吉 田 男 佐 武

(\*印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

## 5. 臨時職員

部名	氏名
研究部	安藤 充, 伊藤 泉美, 石川 重雄, 石浜裕美子, 岩見 隆 大金 富雄, 太田 敬子, 川上 友子, 木村 涼子, 坂元 龍子 関 喜房, 塚瀬 進, 松井千鶴子, 頼田 街子
図書部	久保田宏次, 佐藤 洋一, 清水 一枝, 清水 敏江, 下山多美子 鈴木由香里, 鈴木 立子, 高田 幸男, 野沢 靖之, 三宅 克広 渡辺 修
総務部	石井 正雄, 中太 葉子

## VI 財団法人東洋文庫附置

### ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

#### 1. 調査研究事業

##### 1-A. 長期調査研究「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」

【概要】 本計画は、センターがユネスコ本部に提案し、1974（昭和49）年の第18回ユネスコ総会で採択された研究計画である。この計画実施のために「アジア地域文化研究機関代表者会議」が、1976（昭和51）年3月、センターが受入機関となって東京で開催された。この会議の決議に基づいて、各国で調査研究が進められているが、センターでは本年度、次の四つの研究テーマによる調査研究を実施した。

##### 1-A-1. 「現代アジア諸国におけるマス・コミュニケーションと大衆文化」（5年計画延長第2年度9月終了）

【概要】 アジア諸国において、各国の文化的価値観の形成に重要な役割をもつラジオ・テレビ・新聞・雑誌などのマス・コミュニケーションが、実際に大衆文化にいかなる要素を送りこんでいるかを明らかにすることを目的とし、主として社会科学的研究をおこなう。

【専門委員】 辻村 明（委員長）、伊藤慎一、稲増龍夫、岩男寿美子、岡部慶三、  
佐田一彦

【事業内容】 インドネシア、マレーシア、タイの三国で前年度実施した国際的協同調査「東南アジア諸国においてマス・コミュニケーションが大衆の文化に与える影響に関する国際的協同調査」の集計結果について検討した。

専門委員会

6月24日：調査データの報告と検討

7月24日：調査データの再検討

10月4日：クロスデータの検討と報告書の作成について

##### 1-A-2. 「アジア諸国における企業経営の社会的性格」（5年計画最終年度）

【概要】 変容を遂げつつあるアジア諸国において、都市を中心として展開する人為的な集団の一つである企業をとりあげ、そこに反映されている伝統的文化価値を

分析・整理することによって、諸地域の現代的特色を追究しようとするものである。

【専門委員】 中川敬一郎（委員長）、加納啓良、小池賢治、末広 昭、服部民夫、  
吉原久仁夫

【事業内容】

専門委員会

6月22日：飯塚公二・岡本鉄郎・松尾文雄「東南アジア諸国における日本系合併  
企業の活動」

3月24日：「昭和61年度の事業計画について」

1-A-3. 「アジア諸国における建築と都市計画」（5年計画第3年度）

【概要】 現代のアジア諸国では、ヨーロッパ様式の建築が多くとりいれられているが、その受容の過程を、アジアの伝統的建築の構造・機能の観点も含み考察し、  
合わせて都市化の問題も検討することを目的とし、都市工学・人文・社会科学の領  
域にわたる学際的研究をおこなう。

【専門委員】 西川幸治（委員長）、飯塚キヨ、梅原 郁、応地利明、太田勝敏、  
斯波義信

【事業内容】

専門委員会

6月15日：太田勝敏「東南アジアの都市計画課題と研究概況」

1月27日：長峯晴夫「アジア諸国における地域開発の新次元」

1-A-4. 「現代アジア諸国における地方都市とその文化」（3年計画第2年度）

【概要】 現代アジア諸国では伝統的文化と西欧近代文化の接触が、地方都市で顕  
著にみられる。文化的な国民統合が、多民族国家のアジア諸国で、どのような形で  
形成されていくのかを、これらの地方都市を人文・社会学的に観察・追究すること  
によって解明する。

【専門委員】 梶原景昭（委員長）、内堀基光（9月まで委員長）、大木 昌、  
関本照夫、田村克己、宮坂敬造、山下晋司

【事業内容】

4月27日：大木 昌「都市・町・市場」

7月29日：梶原景昭「文化多元主義と大衆文化——現代オーストラリア社会の位  
相」

9月3日：内堀基光「ブルネイ研究の視点——港湾都市と王朝」

12月13日：田村克己「ビルマの伝統的都市について」



## 1-B. 一般調査研究

### 1-B-1. 「平城京の歴史」(2年計画最終年度)

【概要】本プロジェクトはユネスコの実施している調査研究「アジアの古代都市の研究」の一部をなし、日本の古代都市として平城京を中心とした飛鳥、奈良地域をとりあげ、その歴史および遺物の保存に関する報告書を作成する。

【事業内容】奈良国立文化財研究所所長坪井清足氏に委嘱して、「平城京の歴史」の報告書を作成し、その和文テキストをユネスコに提出した。

### 1-B-2. 「日本における東洋学研究的現状と問題点 1973-83」(4年計画第3年度)

【概要】昭和48年から58年までに発表された東洋学関係の研究業績を部門別に調査し、その現状を記述するとともに、問題点を指摘した報告書を作成することを目的とする。本プロジェクトは昭和47-50年度の調査を継続するものである。

【事業内容】本年度は以下の領域について、それぞれ報告があった。

アジア研究の部：考古学(桑山正進)、朝鮮史(北村秀人)、中国・古代(伊藤道治)、中国・近世(奥崎裕司)、中国・現代(川井伸一)、インド思想・文学(原実)

## 1-C. 特別調査研究「現代アジアの社会的、文化的環境の現状に関する基礎的調査」(7年計画最終年度)

【概要】この特別調査研究は、アジア諸国の文化・社会について実験的、かつ総合的な方法によって、アジア地域が共通にもっている特質を研究し、アジア地域の実情の把握につとめようとするものである。

### 1-C-1. 「アジア諸国におけるエリートに関する社会科学的総合調査」

【事業内容】

専門家会議

3月18日：押川典昭「インドネシア文学における伝統と近代」

### 1-C-2. 「アジア諸国における大衆文化——特に口碑伝承の調査」

【事業内容】

専門家会議

3月8日：関本照夫「地方都市になった町ソロ」

大木 昌「インドネシアの都市——スラバヤの事例」

## 2. 学術交流及び普及，ドキュメンテーション活動

### 2-A. 学術交流

#### 2-A-1. 研究会の開催

(1) 趙 展：中国，中央民族学院民族研究所東北内蒙古研究室副主任：「満族源流小考」（6月8日）

(2) メティン・アント Metin And：トルコ，アンカラ大学演劇学科教授：“Turkish Arts in Ottoman Festivals”（7月20日）

#### 2-A-2. 外国人研究者，各種専門家に対する便宜供与

今年度，上記の外国人研究者（2-A-1）以外でセンターを訪れ，センターが情報等の便宜供与をした外国人研究者は以下のとおりである。

Dr. and Mrs. Chang Shing-Cheong	Lecturer, Department of Chinese Language and Literature, The Chinese University of Hong Kong
Dr. Makaminan Makagiansar	Assistant Director-General for Culture, Unesco, Paris
Mr. Lo Tak Sing	Senior Assistant Manager, Festivals Office, Urban Council, Hong Kong
Dr. Harsono Suwardi	Director of Mass Communication Research and Development, Jakarta
胡 振華	中華人民共和國中央民族学院副教授
Mr. Cho Sung-Ok	Secretary-General, Korean National Commission for Unesco, Seoul
Ms Chagh Guvench	Research Student, Faculty of Fine Arts, Tokyo National University of Fine Arts and Music

Dr. Leonard Y. Andaya	Reader, Department of History, University of Auckland
Dr. Barbara Watson Andaya	Senior Lecturer, Department of History, University of Auckland
Mr. and Mrs. Toh Lam Seng	Editorial Writer, <i>Nan Yang Xing Zhou</i> , Singapore
Ms Ho Chi Mei	Junior Research Fellow, Wolfson College, Oxford
Mr. W. B. Wewegama	Chairman/Managing Director, Blue Sapphire International (Pvt) Ltd., Colombo
Dr. Seah Chee Meow	Teaching Staff, Political Science Department, National University of Singapore
Prof. and Mrs. Michael Aung Thwin	Visiting Researcher, The Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University
Prof. and Mrs. Than Tun	Visiting Professor, Department of Burmese Language, Tokyo University of Foreign Studies
Prof. Whang Wonkoo	Professor, Yonsei University, and Director, The Yonsei University Museum, Seoul
Dr. Michael Vaillancourt Aris	Research Fellow, Wolfson College, Oxford, and Indian Institute of Advanced Studies, Simla

## 2-B. 文献目録等の作成

### 2-B-1. 「日本における中央アジア研究文献目録」(5年計画延長第3年度)

明治以降最近に至る日本人による中央アジア関係の研究文献目録の編集にあたり、本年度は収集されたカードの最終点検を行った。

### 2-B-2. 「日本におけるアジア(含日本)研究者一覧」の編集

本年度より刊行を始めた「日本における東洋学の回顧と展望 1973-1983」の「アジアの部」のシリーズに付随するものとして、編集をすすめた。

## 2—C. 資料の調査・収集および整理

本事業は、アジア諸国においてアジア諸言語によって書かれたアジアの社会・文化・歴史に関する学術書・学術雑誌等の刊行物の出版状況を調査して情報を収集するほか、今後のアジア研究に必要な書籍・定期刊行物・文献などを収集し整理することを目的としている。ここ数年来、とくに世界の注目の的となっている中東の研究に関する、アラビア語・トルコ語・ペルシア語文献の調査・収集を進めてきている。

本年度はトルコ語文献100冊、マイクロフィルム3リールを購入するとともに、収集された図書の整理を行った。

## 2—D. 語学講習会の開催

チベット語講習会

期 間：7月15日（月）～8月23日（金） 土・日曜を除く毎日 午後9時30分—  
12時30分

会 場：東洋文庫3階講演室

講 師：北村 甫，星実千代，Sonam Choephel

修了者：28名

## 2—E. 図書の寄贈及び交換

センターの出版物を、本年度も従来どおり国内の大学，研究所，在日各国公館など約200箇所，国外の大学，研究所，国際的機関など約330箇所に定期的に寄贈した。また国内の研究機関約80箇所，国外の研究機関約120箇所から定期的に出版物の寄贈をうけた。

## 3. 出版物の作成

### 3—A. 機関誌 East Asian Cultural Studies の刊行

本年度は、Vol. XXV, Nos. 1-4 合併号 (159 p.) を刊行した。内容は昭和54-58年度にわたって実施された調査研究「アジア諸国における国民統合の理念とその機能」の報告書である。タイトルおよび目次は次のとおりである。

“National Integration in Asian Countries: Its Theory and Practice”

Preface, by Etō Shinkichi

Ethnic Conflict and National Integration: A Theoretical Overview, by Hirano Ken'ichirō

Nation-Building Reconsidered: Modernization Imperative, Government Initiative, and Popular Response, by Yamakage Susumu

State-Forging and Nation-Destroying: The Case of the Concordia Association of Manchukuo, by Hirano Ken'ichirō

Kartini's Image of Java's Landscape, by Tsuchiya Kenji

Uniformity and Oddity in Indonesian National Integration: School Education, Uniforms, and Drakula, by Shiraiishi Takashi

National Integration in Independent India, by Koga Masanori

The Department of the Legal Principle of Undue Influence in India, by Hirose Hisakazu

3-B. アジア史料叢刊 (Asian Historical Material Series)

『ラーマー世年代記』第2巻註釈篇の編集および、チャン・ヴァン・ザップ著、グエン・カク・カム翻訳『ベトナム書誌』の英文編集を継続した。

3-C. 東アジア文化研究叢書 (East Asian Cultural Studies Series)

次の出版計画を検討した。

3-D. 日本における哲学思想文献の翻訳

上記の出版計画に関して、日本において人文・社会系の英文学術出版物を刊行している機関、出版社の編集・校正担当者6名を招聘して下記のとおり専門家会議を開催した。

2月7日：「日本における英文学術出版物の現状——とくに製作にともなう諸問題と広報活動について」

### 3—E. 日本における東洋学の動向とその展望 (Asian Studies in Japan, 1973-1983)

Part II (アジアの部) のうち次の5点を刊行した。(1—B—2 参照)

Part II-1 Japanese Studies on Archaeology Overseas, by Kuwayama Shōshin

Part II-20 Japanese Studies on Contemporary Southeast Asia, by Ōki Akira

Part II-21 Studies on Indian Philosophy and Literature in Japan, by Hara Minoru

Part II-23 Japanese Studies on South Asian History (until 1900), by Yamazaki Gen'ichi

Part II-27 Japanese Studies on West Asian and North African History (Ottoman Period), by Koyama Kōichirō

### 3—F. アジアの歴史的都市 (Historic Cities of Asia)

本年度は第一冊目として『歴史的都市タキシラ』(The Historic City of Taxila, by Ahmad Hasan Dani, xv, 186p., 52 monochrome plates, 13 colour plates, 2 maps.) を刊行した。目次は次のとおりである。

List of Illustrations

Foreward

Preface

Acknowledgements

Editor's Notes

1 Taxila

2 Prehistory and Protohistory: Pre-Literate Taxila and Its Legends

- 3 Taxila in Historical Records
- 4 Urban Pattern
- 5 Monastic Pattern
- 6 Taxila: Meeting Ground of East and West

Chronology of Taxila

Notes

References

Index

Plates

## 4. 業務報告

### A. 運営委員会・顧問会議

#### 運営委員会

前期 開催日 昭和60年5月28日（火曜日）午後1時30分～3時

場所 東洋文庫会議室

報告 1.昭和59年度事業報告及び決算報告について

議題 1.昭和60年度事業計画案及び予算案について

2.運営委員の改選について

3.顧問の改選について

後期 開催日 昭和60年11月26日（火曜日）午後1時30分～3時

場所 東洋文庫会議室

報告 1.昭和60年度事業中間報告及び会計中間報告について

議題 1.昭和61年度概算要求について

#### 顧問会議

開催日 昭和60年5月28日（火曜日）午後1時30分～3時

場所 東洋文庫会議室

報告 1.昭和59年度事業報告及び決算報告について

議題 1.昭和60年度事業計画案及び予算案について

2.運営委員の改選について

3.顧問の改選について



## B. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
60.4.1	運営委員	柳田 聖山	就任	京都大学人文科学研究所所長
"	"	石井 米雄	"	京都大学東南アジア研究センター所長
"	"	百瀬今朝雄	"	東京大学史料編纂所所長
7.10	顧問	大崎 仁	退任	文部省学術国際局長, 日本ユネスコ国内委員会事務総長
"	運営委員	植木 浩	"	文部省大臣官房審議官
7.30	顧問	植木 浩	就任	文部省学術国際局長, 日本ユネスコ国内委員会事務総長
"	運営委員	重藤 学二	"	文部省大臣官房審議官
61.2.20	"	仙石 敬	退任	国際交流基金専務理事
3.3	"	加藤 淳平	就任	国際交流基金専務理事
3.31	"	戸原 四郎	退任	東京大学社会科学研究所所長
"	"	尾上 兼英	"	東京大学東洋文化研究所所長
"	"	柳田 聖山	"	京都大学人文科学研究所所長
"	"	西崎 信郎	"	文部省大臣官房審議官
"	所長	護 雅夫	"	
"	副所長	松村 潤	"	

## C. 職員異動

年月日	職名	氏名	区分	備考
60.12.31	係員	酒井 敬子	退職	

D. 会計報告

昭和60年度ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

(昭和61年3月31日現在)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額(千円)	科 目	金 額(千円)
経 常 費	61,225	国 庫 補 助 金	80,019
人 件 費	57,748	ユ ネ ス コ 援 助 金	1,337
事 務 費	3,477	財 産 取 入	10
事 業 費	20,932	雑 取 入	791
研 究 経 費	6,642		
長期調査研究費	4,738		
一般調査研究費	1,359		
特別調査研究費	545		
研究者の交流及び 普及活動経費	2,905		
研究文献の収集・目録の 作成・翻訳出版等経費	11,385		
計	82,157	計	82,157

## 5. 役職員名簿

昭和61年3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりです。

A. 所長  
護 雅夫

副所長  
松村 潤

### B. 運営委員

氏 名	現 職
石 井 米 雄	京都大学東南アジア研究センター所長
岩 生 成 一	日本学士院会員
梅 棹 忠 夫	国立民族学博物館館長
梅 田 博 之	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
岡 野 澄	東京工業高等専門学校名誉教授・財団法人東洋文庫評議員
尾 高 邦 雄	東京大学名誉教授
尾 上 兼 英	東京大学東洋文化研究所所長
加 藤 淳 平	国際交流基金専務理事
河 野 靖	上智大学アジア文化研究所客員研究員
重 藤 学 二	文部省大臣官房審議官
高 田 修	東京国立文化財研究所名誉研究員
戸 原 四 郎	東京大学社会科学研究所所長
中 村 元	日本学士院会員・東方学院院长・東京大学名誉教授
西 崎 信 郎	文部省大臣官房審議官
服 部 四 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
福 井 康 順	早稲田大学名誉教授
福 井 直 俊	ユネスコ・アジア文化センター理事長
百 瀬 今朝雄	東京大学史料編纂所所長
森 崎 久 寿	アジア経済研究所所長
柳 田 聖 山	京都大学人文科学研究所所長
山 本 達 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授・財団法人東洋文庫理事

### C. 顧問

氏名	現職
植木 浩	文部省学術国際局長・日本ユネスコ国内委員会事務総長
佐治 敬三	日本ユネスコ国内委員会会長
佐藤 正二	国際交流基金理事長
前田 充明	財団法人文教協会会長・城西大学名誉学長・財団法人東洋文庫評議員

### D. 参与

氏名	現職
青山 秀夫	日本学士院会員・京都大学名誉教授
織田 武雄	京都大学名誉教授
田村 実造	〃
長尾 雅人	日本学士院会員・京都大学名誉教授
丸山 真男	日本学士院会員・東京大学名誉教授
三上 次男	東京大学名誉教授
宮崎 市定	京都大学名誉教授

### E. 専門員

Christian Ashley Daniels

### F. 職員

職名	氏名
調査資料室長	生田 滋
普及室長	外池 明江
庶務外事室長	松前 義治
研究員	本庄 比佐子      福田 洋一
研究助手	設楽 靖子      坂本 葉子      飯田 隆子

### G. 臨時職員

昭和60年4月1日から61年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は、以下のとおりです。

生島真紀子，内野佳子，宇野伸浩，岡 洋樹，清水順治，清水敏江，中村文子，保坂修司，ヤマンラール水野美奈子

財団法人 東洋文庫年報 昭和60年度

---

昭和62年3月17日 発行 (非売品)

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号  
財団法人 東洋文庫  
榎 一 雄

印刷者 東京都中央区湊2丁目2番4号  
株式会社 デ ィ グ

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号  
財団法人 東洋文庫

---

本書は昭和61年度財団法人東洋文庫に対する文部省補助金の一部によって刊行されたものである。

